三木市教育委員会９月定例会

提出議案等

令和８年９月

三木市教育委員会９月定例会提出議案等

【 議　　案 】

第 ７ 号 議 案　令和７年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について（教育総務課）

【 協 議 事 項 】

協 議 事 項 ７　令和７年度における認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る教育委員会事務局職員による補助執行の市長への報告について（教育総務課）

協 議 事 項 ８　「三木市吉川地域義務教育学校設置に係る基本計画」（案）の策定について（小中一貫教育推進室）

【 報 告 事 項 】

報　告　事　項　三木市教育委員会顕彰規則に基づく被顕彰者の決定について（文化・スポーツ課）

報　告　事　項　令和８年度の全国学力・学習状況調査の結果及び今後の取組について（学校教育課）

報　告　事　項　各課（室）の所管事項について

議　　案

第７号議案

令和７年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について

令和７年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２６条の規定により、下記のとおり報告書を作成し、市議会へ提出するとともに、公表することについて、下記のとおり委員会の議決を求める。

令和８年９月１８日提出

三木市教育長　　大　北　由　美

記

１	点検・評価報告書	別添のとおり
２	議会への報告	本議案可決後に市議会へ報告
３	公表の方法	ホームページへの掲載及び市政情報公開コーナーへの配備

協　議　事　項

令和８年９月１８日
教育委員会９月定例会
協議事項７資料

令和７年度における認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る教育委員会事務局職員による補助執行の市長への報告について

１　報告の内容

(1)　認定こども園及び保育所に関すること。

(2)　放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に関すること。

２　報告の理由

市長の権限に属する事務の補助執行に係る教育委員会会議での取扱い基準第４条の規定による。

３　報　告　書　　別紙のとおり

三教総第　　号
令和８年９月　　日

三木市長　　仲　田　一　彦　　様

三木市教育長　　大　北　由　美

令和７年度における認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る教育委員会事務局職員による補助執行について（報告）

標記のことについて、令和７年４月１日から令和８年３月３１日までの補助執行状況を別紙のとおり報告します。

別 紙

令和７年度における認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る教育委員会事務局職員による補助執行事務について（報告）

令和７年度における認定こども園及び保育所並びに放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る事務について、次のとおり実施した。

Ⅰ　認定こども園及び保育所に関すること

１　就学前教育・保育施設の第三者評価及び監査（教育・保育課）

市内の全ての就学前教育・保育施設において、市が責任を持って教育・保育の質の向上を図るため、第三者評価を６施設において実施した。

また、監査については、外部の監査専門官及び市担当職員により、市内の就学前教育・保育施設１７か所を対象に書面監査を実施し、うち民間認定こども園１１施設に対し、実地監査を実施した。

２　保育者研修の実施（教育・保育課）

保育者の資質向上を図ることにより、教育・保育の質を高め、乳幼児に寄り添った適切な教育・保育を実施するため、保育者研修を開催した。

令和７年度は、より実践的な研修による保育の質の向上をめざし、乳児保育をテーマに公開保育を通した実践交流研修会を２回開催した。

また、特別支援研修会（巡回相談）や保育ソーシャルワーカーによる家庭支援研修（巡回訪問）を継続して実施するとともに、令和７年度から新たに多文化共生巡回訪問を実施し、外国にルーツを持つ子どもや保護者への支援のサポートを行い、多様なニーズへの対応の支援・連携を図った。

(1)　保育者研修会の開催状況

研　修　会	演題・テーマ	講師	開催日 場所	人数
保育者 合同研修会	保健計画の作成と活用	兵庫大学短期大学部 教授　森田　惠子氏	R7.6.21 中央公民館	103 人
	講演「こどもの育ちと学びをつなぐ～これからの時代に求められる連携・接続の大切さ～」	大阪総合保育大学 准教授　東城　大輔氏	R7.7.25 教育センター	36 人 (小学校教員 16 人)
幼保小合同研修	講演「子どもの可能性を引き出す「深い学び」について」	文部科学省初等中等教育局 主任視学官　田村　学　氏	R7.8.20 文化会館	31 人

実践交流研修（乳児研修）	・年齢や発達に応じた保育環境について ・育児担当制における職員間の共通理解や連携	社会福祉法人　子どものアトリエ 理事長　瀧　薫　氏	R8.1.14 神和認定こども園	13 人
	・年齢や発達に応じた保育環境について ・一人一人が意欲的に取り組める遊びや生活の支援	社会福祉法人　子どものアトリエ 理事長　瀧　薫　氏	R8.2.13 あけぼの認定こども園	8 人
人権研修会	講演「こどもの安心と信頼を育む教育・保育～愛着形成をささえるかかわり～」	武庫川女子大学 教授　倉石　哲也　氏	R7.11.29 教育センター	43 人
特別支援研修（巡回相談）		県立こども発達支援センター 作業療法士・臨床心理士 兵庫教育大学学 教授　髙野美由紀氏 三木市立教育センター 主査兼指導主事	5 月～10 月 各施設	
家庭支援研修（巡回訪問）		兵庫大学　教授 保育ソーシャルワーカー　田邉　哲雄氏	7 月～2 月 各施設	
市教育委員会指定研究会（えびす認定こども園）	研究主題「共に育ちあうために～一人一人の育ちに視点を当てた保育を考える～」	合同会社笑育 LAVO.代表　百瀬　和夫氏	市民活動センター	42 人

(2)　キャリアアップ研修の開催状況

県から指定を受けて実施する「保育士等キャリアアップ研修」について、市内の全保育教諭を対象に受講の希望を募り、三木市保育協会に委託して行った。

研修分野	演　　題	講　　師	開催日	人数
保健衛生・安全対策	保健計画の作成と活用	兵庫大学短期大学部 教授　森田　惠子　氏	R7.6.21	103 人
	・事故防止及び健康安全管理 ・事故防止及び発生時のガイドライン	兵庫大学短期大学部 教授　森田　惠子　氏	R7.8.9	101 人
	・感染症対策ガイドライン	兵庫大学短期大学部 教授　森田　惠子　氏	R7.8.23	98 人

3　幼保小架け橋プログラムの推進（教育・保育課）

５歳児（年長）から小学校１年生の２年間の「架け橋期」において、「架け橋期」にふさわしい「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、一貫性・連続性を持った架け橋期の教育の充実に取り組むため、令和７年度から「三木市幼保小架け橋期のカリキュラム」の作成に向けた検討会議を発足し、協議を行った。令和８年度末のカリキュラム完成をめざし、令和

７年度は計５回の検討会議を開催するとともに、合同研修や相互参観等を実施し、就学前教育及び小学校教育の相互理解を深め、連携・接続を図った。

（1）　幼保小架け橋期のカリキュラム検討会議の開催

会議名	開催日	内容
第1回 全体会	令和7年5月20日	グループワークと講義 講義「就学前教育と小学校教育の相互理解を深める」
第1回 検討委員会	令和7年7月7日	グループワーク 「1学期の子どもの姿について情報共有」
第2回 検討委員会	令和7年9月16日	相互参観の事後協議 カリキュラムの素案協議 「めざす子ども像」「育みたい力」等
第3回 検討委員会	令和7年11月4日	カリキュラムの素案協議 「主な活動内容」「教師・保育者の支援」「環境構成」等
第4回 検討委員会	令和8年1月21日	1年生の「スタート期」について協議 「安心して挑戦する力」を育むための環境づくりや教師の支援について

（2）幼保小合同研修会の開催

開催日	講師	内容
令和7年 7月25日	大阪総合保育大学 准教授　東城　大輔氏	講演「こどもの育ちと学びをつなぐ～これからの時代に求められる連携・接続の大切さ～」
令和7年 8月20日	文部科学省初等中等教育局 主任視学官　田村　学氏	講演「子どもの可能性を引き出す「深い学び」について」
令和8年 1月13日	彦根市立城南小学校 教諭　田鍋　敏寿氏	オンライン研修「幼・保・小をつなぐ教師の役割～実践事例に学ぶマインドセット～」

（3）　相互参観の実施

幼児教育及び小学校教育の相互理解を深めるため、交流校園所ごとに、検討委員等による相互参観を７月～９月に実施した。

４　保育事業（教育・保育課）

保護者の就労又は疾病等の事由により、乳幼児の保育が必要と認められた者について、それらの乳幼児を保育所等に入所させて保育を行った。

(1) 市内保育所・認定こども園等への入所（園）状況　（令和8年3月31日現在。単位：人）

保育所･認定こども園等名称	運営主体	利用定員	年度末在籍人員
三木市立志染保育所	三木市	75	62
三木市立別所認定こども園	〃	140	95
神和認定こども園	社会福祉法人	140	156

エンゼル認定こども園	〃	155	148
一粒園認定こども園	〃	70	64
清心認定こども園	〃	180	191
ひろの認定こども園	〃	180	163
羽場認定こども園	〃	140	143
えびす認定こども園	〃	180	171
いずみ認定こども園	〃	55	51
自由ケ丘認定こども園	〃	130	116
あけぼの認定こども園	〃	100	103
りんでん認定こども園	学校法人	141	154
清心緑が丘認定こども園	社会福祉法人	115	133
よかわ認定こども園	〃	95	80
リトルエンゼル	〃	19	16
神和ひまわりルーム	〃	19	19
小規模保育所ひろの保育園	〃	19	22
さくらんぼ保育園	〃	19	11
小規模保育所えびすガーデン	〃	19	16
しんてつ・みどりがおか保育園	株式会社	19	18
ポリーキッズルーム	有限会社	19	11
合　計		2,029	1,943

（在籍人員には市外在住の入所（園）乳幼児を含む。）

⑵　市内在住者の入所状況　（単位：人）

年　齢	年度当初 在籍人員	年度途中 入所人員	年度途中 退所人員	年度末 在籍人員
3歳児未満	568（6）	143（9）	44（7）	667（8）
3歳児	401（5）	12（1）	10（2）	403（4）
4歳児以上	848（13）	28（9）	14（3）	862（19）
合　計	1,817（24）	183（19）	68（12）	1,932（31）

（　）内は市外施設入所児童で内数

5　公立認定こども園及び公立保育所の管理運営業務（教育総務課）

公立認定こども園及び公立保育所に質の高い教育・保育を実践するための保育教諭、保育士の配置を行い、教育・保育に必要な消耗品及び光熱水費等の管理運営経費に係る事務を行った。

6　公立認定こども園及び公立保育所の施設管理業務等（教育施設課）

公立認定こども園及び公立保育所の施設管理のほか、各園（所）業務に必要な備品購入など、園児が安心して教育・保育を受けることのできる環境整備を行った。

認定こども園・保育所費　整備工事

名　称	工事内容	契約金額（円）	工　　期	請負業者
市立志染保育所 給食室　排気ファン 更新工事	設備更新 1式	980,000	R7.12.10 ～ R7.12.26	全但工業（株）
市立志染保育所 校門オートロック等 整備工事	校門オートロッ ク等整備 1式	1,617,000	R8.2.16 ～ R8.3.31	金川電業（株）
別所認定こども園校 門オートロック等整 備工事	校門オートロッ ク等整備 1式	4,352,700	R8.2.16 ～ R8.3.31	金川電業（株）
合　　計		6,949,700		

7　公立認定こども園及び公立保育所の給食業務（教育施設課）

公立認定こども園及び公立保育所の給食の献立作成並びに栄養管理、食材発注、衛生管理指導、運営経費の事務を行った。

8　物価高騰対策緊急支援事業（教育・保育課）

物価高騰の影響を受けている民間の保育施設等に対し、光熱費等の価格上昇分の一部を支援することで保育施設の持続的・安定的なサービス提供を図ることを目的として、補助金を交付した。

（単位：人、円）

施　設　名	認可（届出）定員	交　付　額
神和認定こども園	140	536,500
エンゼル認定こども園	165	610,500
一粒園認定こども園	70	277,500
清心認定こども園	180	684,500
ひろの認定こども園	180	684,500
羽場認定こども園	140	536,500
えびす認定こども園	180	684,500
いずみ認定こども園	85	314,500
自由ケ丘認定こども園	130	499,500
あけぼの認定こども園	120	462,500
りんでん認定こども園	150	573,500
清心緑が丘認定こども園	115	425,500
よかわ認定こども園	95	351,500
神和ひまわりルーム	19	55,500
リトルエンゼル	19	55,500
小規模保育所ひろの保育園	19	55,500

さくらんぼ保育園	19	55,500
小規模保育所えびすガーデン	19	55,500
小　　計（18園）	1,845	6,919,000
上記以外の市内施設（11園）	255	980,500
合　　計	2,100	7,899,500

9　「三木市幼保一体化計画」の見直し（教育・保育課）

令和６年度の「三木市幼保一体化計画」の見直し後、就学前児童の人口推計並びに入園希望者数及び就園児童数を調査し、令和７年度には、各園所の就園状況に応じて利用定員の調整を行った。

毎年度、就学前児童の人口推計並びに入園希望者数及び就園児童数を調査するとともに、引き続き、児童数及び就園児数の動向を確認し、令和９年度の同計画の見直しに向け必要な調査・検討を行う。

（課題及び今後の取組）

就学前児童数は減少しているものの、０・１・２歳児の就園希望率は高く、希望する就学前教育・保育施設への入園を待つ児童の解消や、多様な保育ニーズに対応するための保育教諭の確保は引き続き課題となっている。

今後も、人口推移、地域ごとのニーズや各園所の就園状況に応じて定員の調整を行うとともに、必要な保育教諭の確保に努める。

また、架け橋期の教育・保育の充実を図るための合同研修やカリキュラムの作成に向けた検討会議の開催と併せて保育者研修並びに第三者評価を実施するなど、更なる質の高い保育をめざす。

Ⅱ　放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に関すること

1　放課後児童健全育成（アフタースクール）事業（教育・保育課）

昼間、保護者等が労働などにより家庭にいない児童を対象に、遊びと生活の場を与え、その児童の健全な育成を図るため、放課後児童健全育成（アフタースクール）事業に係る計画方針、施設の整備・維持管理、運営指導、運営管理、従事職員等の研修、労務管理、調査・研究・統計、相談業務及び庶務業務を行った。

受入れは、市内全ての小学校区で行った。

(1)　アフタースクールの状況（令和８年３月31日現在）　　（単位：人）

NO.	名　称	開設場所	定員	配置支援員		入所児童数（※）				運営	委託先
							うち延長保育	うち障がい	うち職員の子		
1	緑が丘	緑が丘小敷地内	90	8	2	73	3	8	4	直営	―
2	よかわ	吉川小内	70	6	1	49	8	18	3	直営	―
小計	直営	２か所	160	14	3	122	11	26	7		
3	三　樹	三樹小内	80	9	3	67	9	2	5	委託	社会福祉法人神和福祉会
4	平　田	旧平田幼	90	9	3	80	10	0	6	委託	社会福祉法人釜城会
5	三　木	三木小内	78	10	4	65	7	10	10	委託	社会福祉法人えびす福祉会
6	別　所	別所小内 別所小敷地内	80	8	4	43	5	8	5	委託	社会福祉法人羽場福祉会
7	志　染	志染小内	30	4	2	23	4	6	3	委託	社会福祉法人真生福祉会
8	口吉川	旧口吉川幼	30	3	1	10	0	6	2	委託	社会福祉法人白水会
9	豊　地	豊地小敷地内	30	2	0	5	1	2	0	委託	社会福祉法人白水会
10	緑が丘東	旧緑が丘東幼	108	10	2	97	20	13	4	委託	社会福祉法人正志会
11	自由が丘	自由が丘小内	90	11	4	77	11	0	9	委託	社会福祉法人自由ケ丘福祉会
12	自由が丘東	旧自由が丘東幼	66	4	0	42	3	3	0	委託	社会福祉法人真生福祉会
13	広　野	広野小内	62	6	2	52	7	4	4	委託	社会福祉法人しじみ福祉会
小計	委託	11か所	744	76	25	561	77	54	48		
合計	直営＋委託	13か所	904	90	28	683	88	80	55		

※上記の入所児童数に春休み限定児童数は含まない。

（課題及び今後の取組）

アフタースクールの運営に当たり、年度前半の一部の地域における高学年児童の待機及びその受入態勢の整備についての課題が解消されない状況が続いている。

引き続き、今後の入所児童数の動向分析を進め、更なる小学校との連携を図りながら、児童受入れの検討を行う。

また、発達や生活面において支援を必要とする児童が増えていることから、児童や保護者のさまざまなトラブルやニーズに対応するため、アフタースクールに勤務する支援員及び補助員を対象とした研修会を充実させ、支援員等の資質向上を図る。

令和８年９月１８日
教育委員会９月定例会
協議事項８資料

「三木市吉川地域義務教育学校設置に係る基本計画」（案）の策定について

１　概　　要

本基本計画は、令和７年８月に策定した「吉川地域における施設一体型小中一貫校基本構想」で示した理念やめざす学校のコンセプト、学校整備の基本的な方向性を踏まえ、今後の設計につなげるため、学校づくりに必要な施設・諸室やその活用方法などを具体化したものである。

策定に当たっては、保護者、地域住民及び教職員を対象としたワークショップを開催し、そこで出された意見を踏まえながら検討を進めた。

また、施設設備にかかる概算事業費、建設方法及び開校までのスケジュールについても検討し、令和１２年度の開校に向けた施設整備の基本的な方向性を示している。

２　基本計画

「三木市吉川地域義務教育学校設置に係る基本計画」（案）
通常版・概要版【別紙】

３　今後の予定

本基本計画で示した方向性を踏まえ、今後、建築、敷地配置、構造などについて具体的に検討する「基本設計」へと取組を進める。

その後、「基本設計」に基づき、工事発注に必要となる詳細な図面や仕様等を作成する「実施設計」を行い、令和１２年度の開校に向け、施設整備を進めていく。

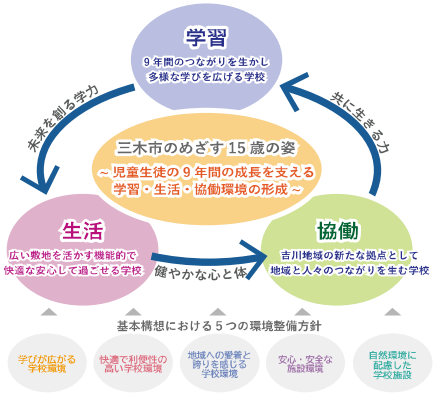
三木市吉川地域

義務教育学校設置に係る基本計画（案）　概要版

全国的な少子化の進行や社会環境の変化に伴い、三木市においても児童生徒数の減少が続く中、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備するため、令和元年度から学校再編や小中一貫教育の導入に向けた検討を進めてきました。

これまでの検討経緯を踏まえ、「吉川地域における施設一体型小中一貫校基本構想」や関連する行政計画との整合を図りながら、小中一貫教育を実践するために必要な学習環境や交流機能、防災機能等を整理するとともに、開校準備委員会やワークショップ等でいただいた意見を反映し、敷地利用や施設配置の方針を示す基本計画を策定しました。

校舎づくりコンセプト



Ⅰ. 学習：９年間のつながりを生かし多様な学びを広げる学校

施設一体型義務教育学校のメリットを活かし、学習空間の共有化や、教科の特性に応じた専門的な学習環境の整備を図るとともに、新しく整備される学校施設として、最新の教育ニーズに対応する学習環境と教職員の執務環境を計画します。

Ⅱ. 生活：広い敷地を活かす機能的で快適な安心して過ごせる学校

広い敷地を活かして児童生徒が安全にのびのびと過ごせる学校環境を計画するとともに、敷地の高低差を考慮した利便性の良い動線及び施設計画とします。また校舎は日当たりや通風を確保した健康的な建物とし、全ての子どもたちが安心して通える環境づくりを行います。

Ⅲ. 協働：吉川地域の新たな拠点として地域と人々のつながりを育む学校

吉川地域の新たな教育・地域活動の拠点として、これまでのコミュニティ・スクールや地域連携学習の取組をさらに推進し、学校と地域のつながりを深めます。また、地域の防災拠点として必要な機能を備え、地域に親しまれ、安心して利用できる学校づくりを進めます。

Ⅰ. 学習

① メディアセンター・教科ギャラリーを活用した学習環境
② 多様な学校運営に対応する柔軟な教室
③ 多様な学びを支える教育空間
④ 全ての児童生徒が学びやすい教育環境
⑤ 発達段階に応じた異学年交流空間
⑥ 働きやすさに配慮した管理諸室
⑦ 教科学習の高度化を支える特別教室


① 立ち寄りやすいメディアセンター

Ⅱ. 生活

① 安全な遊び・運動を支える活動空間
② バリアフリー・ユニバーサルデザイン
③ 歩車分離を基本とした安全な動線
④ 可視管理による安全な学校づくり
⑤ 自然環境を活かした省エネルギー計画
⑥ 県産木材を活用した木質空間
⑦ 安心して過ごせる居場所づくり


① 低学年が利用しやすいプレイロット

Ⅲ. 協働

① 地域との交流を育む多目的交流スペース
② 地域・保護者連携推進室
③ 学校運営と地域利用を両立する地域開放ゾーニング
④ 避難所機能を備えた防災拠点
⑤ 学校の歴史を継承するメモリアル交流ホール
⑥ 部活動の地域展開に対応した競技空間・設備
⑦ 学童保育施設を併設した放課後の居場所

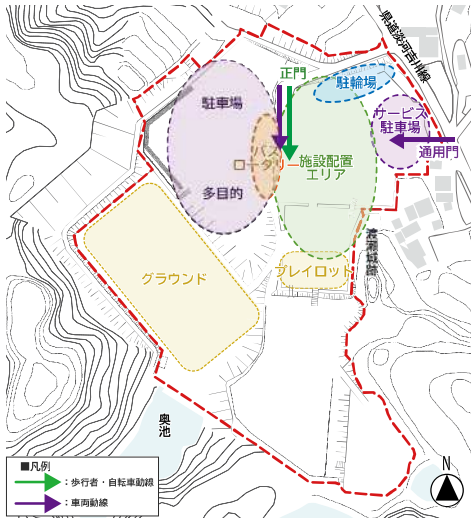

①様々な活動に利用可能な多目的交流スペース

計画諸室・計画規模の方針

・児童生徒数や教職員数、教職員・地域住民・保護者とのワークショップを踏まえ、主に以下の所要室、規模にて計画します。

■校舎　・・・普通教室９室、多目的スペース、多目的教室３室、特別支援教室４室、図書室、理科室２室、家庭科室、音楽室、工芸室２室、多目的交流スペース、職員室、事務室、校長室、保健室、相談室、サポートルームなど
■屋内運動場　・・・アリーナ、ステージ、器具庫、更衣室、防災備蓄倉庫など
■付属施設　・・・駐輪場、屋外便所、屋外倉庫など
■学童保育施設　・・・学童保育室、事務室、静養室（更衣室）、アメニティスペースなど
■合計延床面積　・・・約 8,000 ㎡

計画地概要と施設配置、ゾーニングの方針



■敷地について

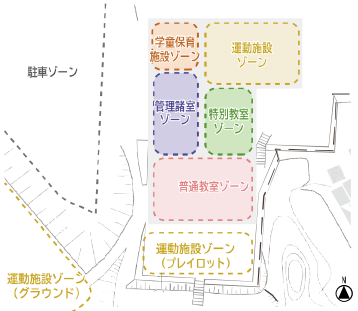
・敷地内に５か所の高低差があります。
・北東側は、県道淡河吉川線に接しています。
・東側には渡瀬城跡、南側にはため池（奥池）があります。

■土地利用方針

・東側県道、敷地内通路の両方からアクセスしやすい北側中央部に校舎を配置します。
・十分な駐車台数を確保できる敷地北西部に教職員・来客・スクールバス駐車場を配置します。
・校舎に隣接してバスロータリーを配置します。
・東側県道から直接アクセスできる北東部に給食搬入などのサービス用駐車場を配置します。
・広く整形で利用しやすいグラウンドを南西部に配置します。
・児童生徒の体格差に配慮し、校舎に隣接して低学年用プレイロットを設けます。

■動線方針

・歩車分離を基本とした安全な動線計画とします。
・北側敷地内通路に正門を設け、歩行者・自転車と一般車両・スクールバスの動線を分離します。
・東側県道に通用門を設け、給食搬入などのサービス動線とします。
・敷地内の高低差を踏まえ、階段・スロープ・エレベーターによりバリアフリー化を図ります。



普通教室ゾーン
・前期課程、後期課程及び特別支援教室のまとまりに配慮した配置。
・普通教室との連携に配慮した多目的教室・特別支援教室の配置。

特別教室ゾーン
・地域開放の優先度や、普通教室からの移動に配慮した配置。
・図書室は普通教室ゾーンからの移動や動線に配慮した配置。

駐車ゾーン
・歩車分離を確実に行いながら、敷地内に教職員・来客・サービス用駐車場を配置。

運動施設ゾーン
・地域開放や避難所機能を考慮して１階に屋内運動場を配置。
・グラウンドと低学年用プレイロットを設け、安全に使い分けができる配置。

管理諸室ゾーン
・学校全体が見渡せ、各教室や特別教室に移動しやすい位置に配置。
・相談室、サポートルームは、一般児童生徒との動線の交錯の生じにくい配置。

学童保育施設ゾーン
・児童・生徒昇降口や駐車場への動線に配慮しながら校舎内に配置。

構造・設備計画の方針

・構造体は、大地震動後も大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とします。
・耐震安全性の基準は、Ⅱ類・A 類・乙類とします。
・構造方式は鉄筋コンクリート造（RC 造）を主体とします。
・設備計画は維持管理や改修容易性、経済性、省エネルギー化に配慮した計画とします。
・脱炭素化やエコスクールの取組を推進し、ZEB Ready 相当の環境性能を目指します。
・災害時の避難所機能を担うバックアップ体制を構築します。

地域開放機能の方針

・現状の地域利用状況を踏まえ、学校運営と地域利用を両立する地域開放を計画します。
・屋内運動場などの１次開放と多目的交流スペースなどの２次開放に対応した地域開放範囲とします。
・開放範囲に応じたゾーニングやセキュリティ計画により、安全で利用しやすい施設を計画します。

防災機能の方針

・指定緊急避難場所（地震時のみ）及び指定避難所として計画します。
・安全で丈夫な建物づくりをするとともに、マンホールトイレや非常用電源などの避難設備を整備します。


かまどベンチ


マンホールトイレ

環境配慮機能の方針

・施設面・教育面・運営面の３つの視点から環境配慮計画について検討します。
・日射遮蔽や木質化、太陽光発電設備の導入など、環境負荷の低減に資する取組を行います。


［施設面］庇やルーバーによる日射遮蔽


［教育面］内装木質化


［運営面］太陽光発電設備の検討

事業スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
設計	基本・実施設計、許認可				
工事		既存校舎解体	校舎建設		
学校運営					供用開始

※点線部分は、今後の設計・工事進捗等により変更となる可能性があります。

三木市吉川地域義務教育学校
設置に係る基本計画策定業務（案）

基本計画書

令和８年　月
三木市教育委員会

■ 目次

Ⅰ　はじめに

1. これまでの検討経緯

（1）これまでの経緯　・・・・・ 5
（2）三木市小中一貫教育グランドデザイン（基本理念）　・・・・・ 6
（3）基本構想　・・・・・ 7

2. 本計画の位置付け　・・・・・ 8

Ⅱ　基本計画策定にあたっての条件整理

1. 上位計画・関連計画

（1）文部科学省の各種指針　・・・・・・10
（2）市の行政計画　・・・・・・12

2. 計画地概要

（1）三木市の概要　・・・・・・13
（2）計画地の概要　・・・・・・14
（3）小学校及び中学校の概要　・・・・・・17
（4）児童生徒数の推移　・・・・・・18

Ⅲ　施設計画

1. 校舎づくりコンセプト　・・・・・・20

2. 計画諸室

（1）所要室の計画方針　・・・・・・22
（2）各室の利用形態　・・・・・・22

3. 構造計画の方針

（1）計画の方針　・・・・・・24
（2）耐震性能の方針　・・・・・・24
（3）構造方式の方針　・・・・・・25

4. 設備計画の方針

（1）計画の方針　・・・・・・26
（2）電気設備計画の方針　・・・・・・26
（3）機械設備計画の方針　・・・・・・27
（4）セキュリティ計画の方針　・・・・・・27
（5）省エネ基準・ZEB化の方針　・・・・・・28

Ⅳ　配置・平面ゾーニング計画

1. 敷地利用計画・配置計画

（1）既存施設の活用の検討　・・・・・30
（2）建設位置の方針　・・・・・33
（3）施設配置の方針　・・・・・34
（4）ゾーニングの検討　・・・・・35
（5）コンセプトの具現化　・・・・・36

Ⅴ　付加機能

1. 地域開放機能

（1）計画の方針　・・・・・40
（2）地域開放範囲の考え方　・・・・・41
（3）防犯性確保の考え方　・・・・・42

2. 防災機能

（1）計画の方針　・・・・・43
（2）学校施設における避難所機能強化の考え方　・・・・・44

3. 環境配慮機能

（1）計画の方針　・・・・・48
（2）環境配慮手法の採用の考え方　・・・・・48

Ⅵ　整備費概算・事業スケジュール

1. 整備費概算　・・・・・53

2. 事業スケジュール　・・・・・53

Ⅰ　はじめに

1. これまでの検討経緯

(1) これまでの経緯

近年、全国的な少子化の進行や社会環境の変化により、子どもたちを取り巻く教育環境は大きく変化しています。三木市においても児童生徒数の減少が続いており、特に吉川地域では、市町合併当時の平成 17 年度と令和 7 年度を比較すると、児童生徒数は 3 分の 1 以下に減少し、学校の小規模化が進行しています。

このような状況を踏まえ、本市では令和元年 10 月に「三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針」を策定し、子どもたちにとって望ましい教育環境の整備に向けた取組を進めてきました。令和 3 年度には中吉川小学校、上吉川小学校及びみなぎ台小学校を統合して吉川小学校を開校し、令和 4 年度には東吉川小学校を統合し、現在の吉川小学校が誕生しました。

令和 3 年 12 月には、小中一貫教育の目的や育成すべき資質・能力を示した「小中一貫教育グランドデザイン」を策定し、「主体性」「協働性」「創造力」を身に付けた 15 歳の育成を目指すとともに、教員交流研修やカリキュラムの検討など、小中一貫教育の実践に向けた取組を開始することとしました。

令和4年度には、学識経験者・地域・保護者・学校の代表から成る「三木市小中一貫教育推進協議会」を設置し、市内全校で取り組む小中一貫教育の方向性や施設一体型小中一貫校の導入について協議を重ね、令和 5 年 1 月には「三木市小中一貫教育推進に係る意見書」が提出されました。さらに、令和 5 年 5 月の総合教育会議において、吉川地域に本市初となる施設一体型小中一貫校を設置する方針が決定されました。

その後、「吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会」及び「教職員部会」を設置し、地域住民や保護者、教職員など多様な主体との協議を重ねながら、新たな学校の在り方や施設整備の方向性について検討を進めてきました。

これらの検討を踏まえ、令和 7 年 8 月に「吉川地域における施設一体型小中一貫校基本構想」を策定し、施設一体型小中一貫校における教育の基本的な考え方や施設整備の方向性を示しました。

(2) 三木市小中一貫教育グランドデザイン（基本理念）

小中一貫教育の目的や意義を明確にし段階的に推進していくため、令和３年１２月に「小中一貫教育グランドデザイン」を作成しました。小中一貫教育を通して育成すべき資質や能力等に関する考え方について構造的にまとめています。

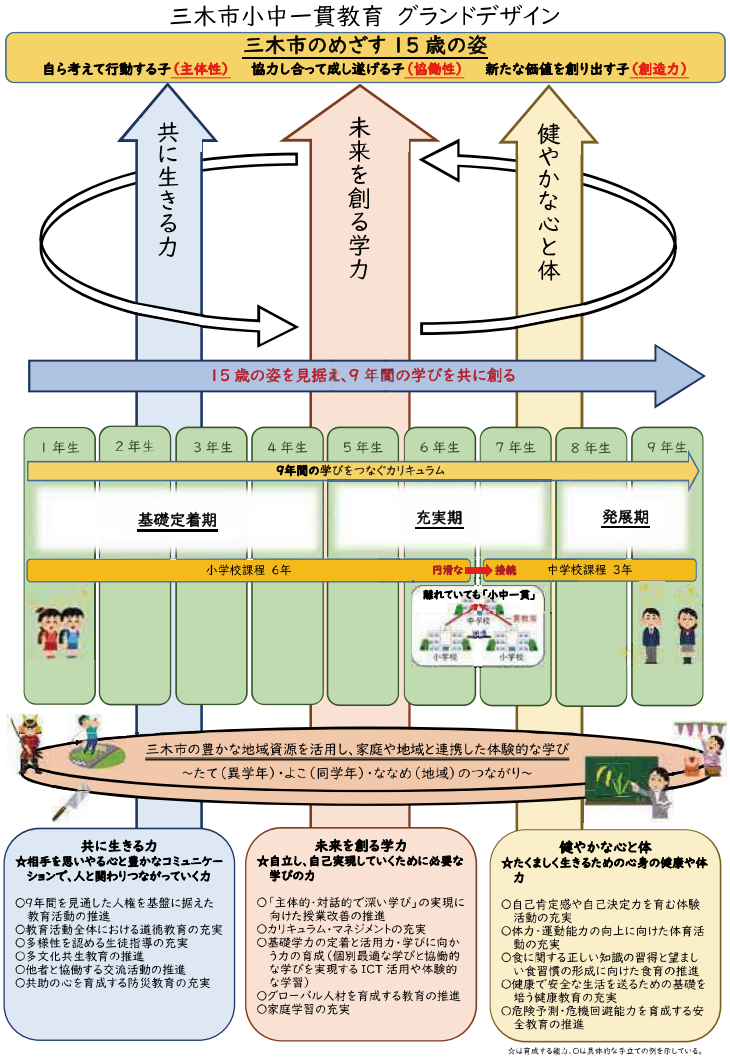
グランドデザインでは、９年間の学びの積み重ねを通して、予測困難な未来を生き抜くために必要な「主体性」「協働性」「創造力」を身に付けた 15 歳の育成を目指しています。また、その実現に向けた３つの柱として「未来を創る学力」「共に生きる力」「健やかな心と体」を設定しています。

また、本市は豊かな教育資源に恵まれていることから、家庭や地域と連携した体験的な学びを推進しています。

「令和５年度からは、コミュニティ・スクール（※１）（学校運営協議会制度）を順次導入しており、小中一貫教育グランドデザインに基づく教育活動の更なる充実を図っています。」

「※１　学校と保護者や地域住民が共同で子どもたちの成長を支える「地域とともにある学校づくり」を目指す仕組みです。」

三木市小中一貫教育　グランドデザイン



(3) 基本構想

本市が目指す教育理念の実現に向け、吉川地域の特色を生かした施設一体型の義務教育学校（※１）を整備し、令和 12 年度（2030 年度）の開校を目指します。

施設一体型の特長を生かした９年間の一貫教育と、一人一人に寄り添う教育環境を実現するとともに、子どもたちにとって「明日、また行きたい学校」、地域にとって「生き生きと輝く学校」を目指し、次の５つのコンセプトに基づき環境整備を進めます。

「※１「義務教育学校」は、一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、小学校 6 年間と中学校 3 年間の義務教育を一つの学校で一貫して行う学校」

❶ 学びが広がる学校環境

児童生徒の日常的なふれあいを重視し、多様な学習形態に対応できるフレキシブルな環境を整備します。

・「４・３・２制」の導入など、多様な学年段階の区切りにも対応できる施設環境を目指します。
・学校全体を「学びの場」として捉え、学年の枠を越えて児童生徒が日常的に交流できる施設環境を検討します。
・将来の児童生徒数の変動や教育活動の変化などに対応可能な施設を目指します。

❷ 快適で利便性の高い学校環境

児童生徒がのびのびと過ごせる、快適で利便性の高い環境を整備します。

・児童生徒が活力あふれる学校生活を送るとともに、いつも安心してリラックスできるなど、心の居場所となる施設環境を目指します。
・心身ともに健康な学校生活に向け、日照、採光、通風、換気、室温、音の影響等に配慮し、快適性の確保に努めます。
・全ての人が円滑に学校を利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮するとともに、バリアフリー施設として整備します。

❸ 地域への愛着と誇りを感じる学校環境

学校をより身近なものとし、地域を支え、地域に支えられる環境を整備します。

・学校と協働する活動（コミュニティ・スクール等）を行う人たちと児童生徒が交流できるエリアを確保し、地域の教育力を生かした学びを創造します。
・統合の経緯を踏まえ、学校への親しみや愛着を育むことのできる空間整備を検討します。

❹ 安心・安全な施設環境

全ての児童生徒が生き生きと元気に学ぶため、安心と安全に配慮した環境を整備します。

・不審者対策等の充実をはじめ、より高い防犯性を備えた機能的な施設環境を目指します。
・敷地内における徒歩、自転車、自動車、スクールバスの利用に係る動線に配慮するなど、安全な施設環境を確保します。
・災害時には児童生徒及び地域住民等の避難場所となることを想定し、地域防災拠点としての機能を確保します。

❺ 自然環境に配慮した学校施設

地球環境負荷への配慮とともに、次世代を担う子どもたちが五感で体感できる環境教育の場となる施設を整備します。

・外壁や窓の高断熱化、高効率照明や高効率空調機等の設備の導入などにより、省エネルギー化による維持管理費の縮減を目指します。
・環境教育と関連付けながら、児童生徒が再生可能エネルギーや地球環境について理解を深め、社会全体に貢献する意識の醸成を図ります。

2. 本計画の位置付け

基本計画は、基本構想で示した理念や整備方針を具体化するものであり、義務教育学校に求められる教育環境や地域連携機能、防災機能等の必要な諸条件を整理するとともに、地域住民、保護者及び教職員との対話やワークショップなどでいただいた意見を踏まえながら、敷地利用や施設配置、諸室構成、整備方針等を具体的に示し、令和 12 年度の開校に向けた施設整備を推進することを目的とします。

基本計画のとりまとめにあたっては、主に以下の項目を検討し、方針決定を行います。

・基本構想の反映
・関係者の意見聴取結果とその反映
・必要諸室の整理
・建築計画の条件整理（施設規模、構造・設備計画など）
・敷地利用パターンの比較検討及びゾーニングの検討
・付加機能の検討（地域開放、防災、環境配慮計画など）
・概算工事費の算出
・設計・施工スケジュールの整理

Ⅱ　基本計画策定にあたっての条件整理

1. 上位計画・関連計画

計画の前提条件となる国の各種指針や法令、三木市の主な行政計画・教育目標を整理し、その中における本事業及び計画地の位置付けを把握します。

(1) 文部科学省の各種指針

■小学校・中学校学習指導要領

(平成 29 年 3 月告示　令和 2 年度（小学校）・令和 3 年度（中学校）全面実施)

学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準が定められています。平成 29 年の改定のポイントとして下記が挙げられています。

〇子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の推進
〇社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」の重視
〇道徳教育の充実や体験活動の重視による「豊かな心や健やかな体を育成」

■次期学習指導要領の改訂に向けた検討（令和 6 年度～）

次期学習指導要領の改訂に向けた検討が進められています。本計画では、供用開始時の教育内容を見据え、将来的な教育の変化にも柔軟に対応できる学校施設を目指します。

■小学校・中学校施設整備指針（令和 4 年 6 月）

学校教育を進める上で必要な機能を確保するための留意事項を示したものです。令和 4 年の改正では、1 人 1 台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向け、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について記述されました。

■新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（令和 4 年 3 月）

学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するために、計画及び設計における留意事項が示されています。令和 4 年の改定では「“Schools for the Future”「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する」というキーコンセプトを掲げ、以下の 5 つの方向性を示しています。

〇学び：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現
〇生活：新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
〇共創：地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現
〇安全：子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
〇環境：脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

■学校施設の長寿命化計画（個別施設計画）の充実・見直しに係る取組事例集（令和 7 年 3 月）

学校施設の長寿命化計画の充実・見直しに向けた検討プロセスや、施設更新・改修の進め方、維持管理に関する取組事例が示されています。

■学校における ICT 環境の整備方針・ICT 環境整備 3 か年計画（2025 ～ 2027 年度）（令和 7 年 1 月）

GIGA スクール構想のさらなる推進に向け、学校における ICT 環境の整備目標や整備方針が示されています。

■エコスクール－環境を考慮した学校施設の整備推進－（令和 4 年 6 月）

環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備に関して「施設面・運営面・学習面」の 3 つの視点から留意事項が記載されています。

■近年の災害から学ぶ避難所となる学校施設について～バリアフリー化の取組事例集～（平成 30 年 3 月）

近年の災害で避難所となった学校施設で聞かれた避難者の声や、避難所となる学校施設のバリアフリー化の重要事項などを事例集として取りまとめています。

■避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集（令和 2 年 3 月）

避難所となる学校施設の防災機能強化などに向けた取組を推進する際の参考となるよう、学校施設の防災機能整備の取組が記載されています。

■学校施設バリアフリー化推進指針（令和 2 年 12 月）

学校施設のバリアフリー化に関する基本的な考え方や計画・設計上の留意点などについて記載されています。

■学校施設のバリアフリー化の加速に向けた取組事例集（令和 4 年 6 月）

学校施設のバリアフリー化の加速に向けた取組を推進する際の参考となるよう、学校施設のバリアフリー化の取組が記載されています。

■2050 年カーボンニュートラルの実現に資する学校施設の ZEB 化の推進について
ー既存学校施設における快適で健康的な環境づくりと脱炭素化に向けてー（令和 5 年 3 月）

学校施設の脱炭素化に関するワーキンググループを設置し、学校施設の ZEB 化の推進方策などについて報告書として取りまとめています。

■ZEB チェックポイント～設計における ZEB 対応確認事項～（令和 6 年 3 月）

大学、高専などにおける教室棟や研究棟などの標準的な施設を対象として、ZEB 化の手法を示すとともに、施設整備の際に ZEB 化（ZEB Ready 相当）を実現するための設計段階でのチェックポイントなどをまとめています。

(2) 市の行政計画

■三木市総合計画（令和 2 年 3 月策定、令和 7 年 3 月改訂）

まちの将来像「誇りを持って暮らせるまち三木」のもと、まちづくりの方向性とその実現のための取組方針について記載されています。

■第 3 期三木市創生計画　人口ビジョン・総合戦略（令和 7 年 3 月策定、令和 8 年 3 月第 2 版）

「目標」「基本方針」「総合戦略の 5 つの柱」のもと、目標人口達成に向けた各戦略・政策について記載されています。

■三木市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月策定、令和 4 年 3 月改訂）

多くの公共施設が一斉に更新時期を迎えることから、公共施設等の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、財政負担を縮減するとともに、人口規模・市民ニーズに適合した配置を目指すことが示されています。

■第 3 期三木市教育大綱（令和 7 年 3 月）

基本理念『夢を育み､未来を創る三木の教育』及び基本方針「「未来を創る教育」を進めます」「子どもたちが安心して自分らしく過ごせる学校・家庭・地域をつくります」「安心・安全で質の高い学びを表現する環境づくりを進めます」「人生 100 年を通じた学びを支えます」のもと、方針や具体的施策が挙げられています。

■第 4 期三木市教育振興基本計画（令和 8 年 2 月）

第 3 期三木市教育大綱の理念を具体化する実施計画として策定され、令和 8 年度から令和 12 年度までの教育施策の基本的な方向性を示しています。「夢を育み、未来を創る三木の教育」の実現に向け、子ども一人ひとりの可能性を伸ばす教育や、誰もが安心して学べる教育環境の充実を推進します。

■三木市こども計画（令和 7 年 3 月）

学校・家庭・地域が連携・協働した「地域とともにある学校づくり」を進め、こどもたちを地域全体で育てる機運を高めることが示されています。

■第 3 次三木市環境総合計画（令和 3 年 4 月策定、令和 8 年 3 月中間見直し）

目指す環境像『自然共生と資源循環による「うるおい豊かな環境」を守りつなぐまち　三木』の実現のための、５つの基本目標と施策が記載されている。環境教育・環境学習を推進するための施策として、体験型学習を通じて子どもたちの環境への理解を深めることが示されています。

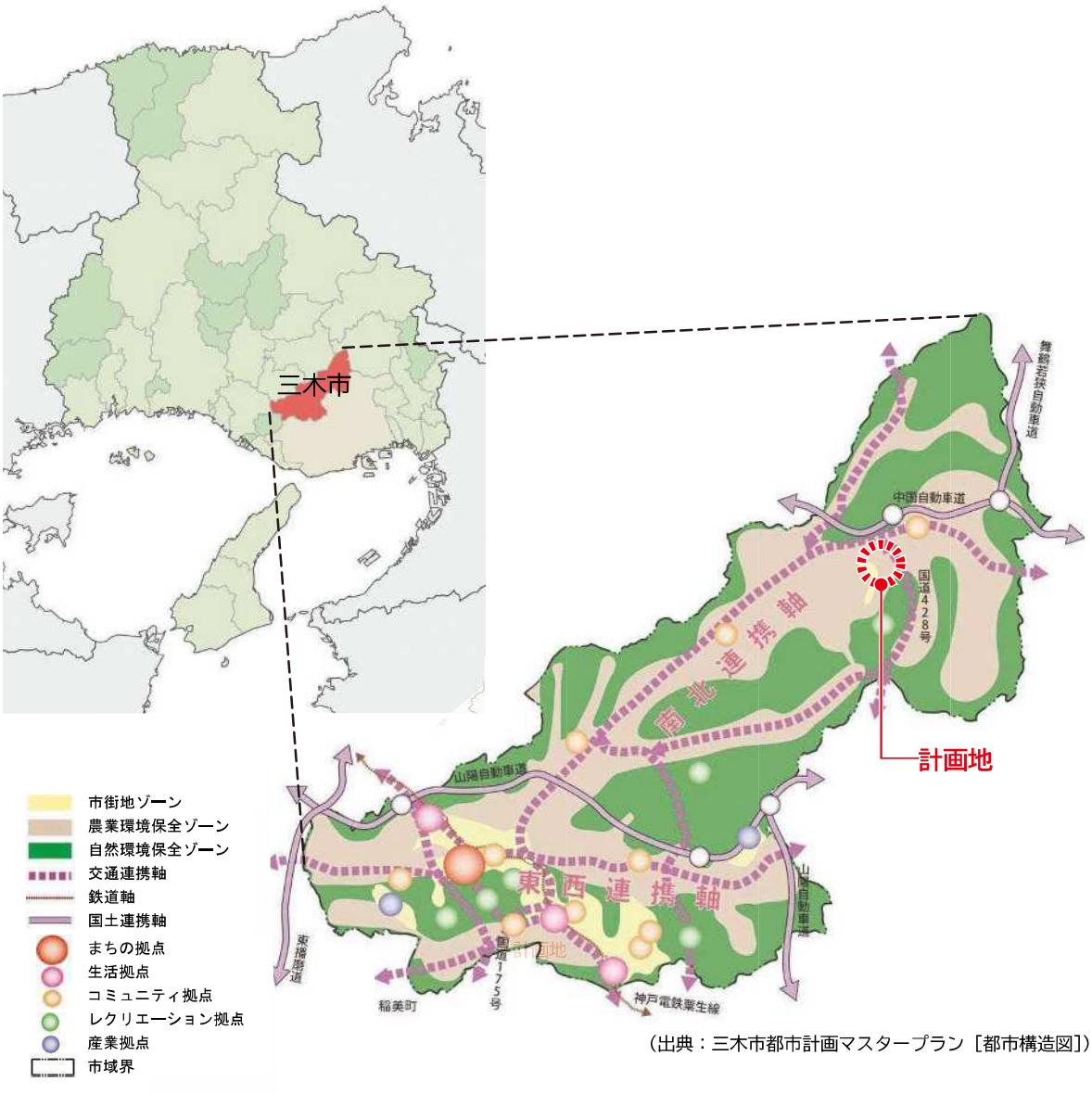
■三木市地域防災計画（令和 7 年）

学校を地域防災拠点として位置付け、施設の耐震・耐火性の強化や防災機能を備えた施設整備を推進することが示されています。

2. 計画地概要

(1) 三木市の概要

三木市は、兵庫県の南東部に位置し、西は加古川市･稲美町、東は三田市、南は神戸市、北は小野･加東市に接しています。交通面では、神戸電鉄粟生線が市内を通り、東西には、山陽自動車道・中国自動車道が横断しています。交通の要衝として注目され、数多くのゴルフ場が立地するほか、「三木ホースランドパーク」「山田錦の館」「吉川温泉よかたん」「ネスタリゾート神戸」など、観光資源も多彩なものがあります。古い歴史と自然に恵まれ、播磨国風土記には、億計（おけ）、弘計（をけ）2 皇子の古代ロマンの物語が記されています。また、平成 17 年に三木市と吉川町の合併により、名実ともに山田錦（酒米）の主生産地となり、三木金物ブランドも全国的に有名です。

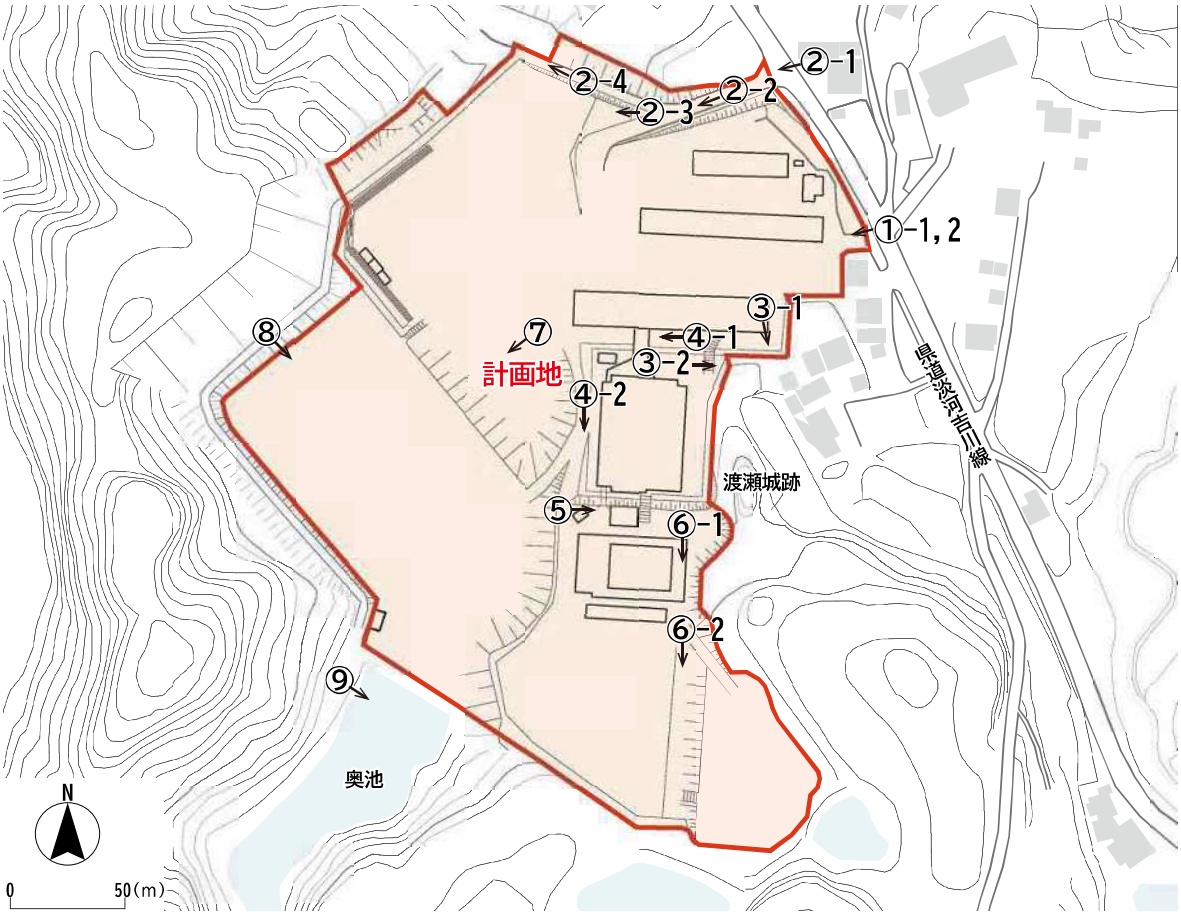


（出典：三木市都市計画マスタープラン［都市構造図］）

(2) 計画地の概要

■概要

・所在地　　：三木市吉川町渡瀬 300 番地 12
・敷地面積　：約 45,000 ㎡
・用途地域　：吉川都市計画区域（非線引き区域）
　　用途地域指定なし
・容積率　　：200%
・建ぺい率　：60%
・接道　　：東側（県道淡河吉川線）　幅員 6.5 ～7.5m
・防火指定　：指定なし
・高さ制限　：道路斜線：1.25L
　　隣地斜線：1.25L＋20m
・日影規制　：4h-2.5h/4m（建築物の高さ 10m超えの場合）
・その他　　：屋外広告物規制　第 1 種禁止地域（高速道路から 1 ㎞範囲）、第 2 種禁止地域
　　埋蔵文化財包蔵地
　　「まちの区域」「丘陵の区域」に該当（県緑条例）



※図上の境界線は、未確定部分を含む、想定ラインとしています。

■現況写真


①-1 県道淡河吉川線


①-2


②-1 敷地内通路


②-2


②-3


②-4


③-1 渡瀬城跡


③-2


④-1 敷地内高低差


④-2


⑤敷地内高低差


⑥-1 敷地内高低差


⑥-2


⑦敷地内高低差とグラウンド 1


⑧グラウンド 2


⑨奥池

① 県道淡河吉川線：計画地接道部分は 2 車線 + 歩道付き道路となっています。

② 敷地内通路：計画地内には県道と敷地を結ぶ通路が整備されています。

③ 渡瀬城跡：現屋内運動場に隣接し、擁壁によって隔てられています。

④ 敷地内高低差：約 5.5mの段差です。

⑤ 敷地内高低差：約 6.2mの段差です。

⑥ 敷地内高低差：約 3.7mの段差です。

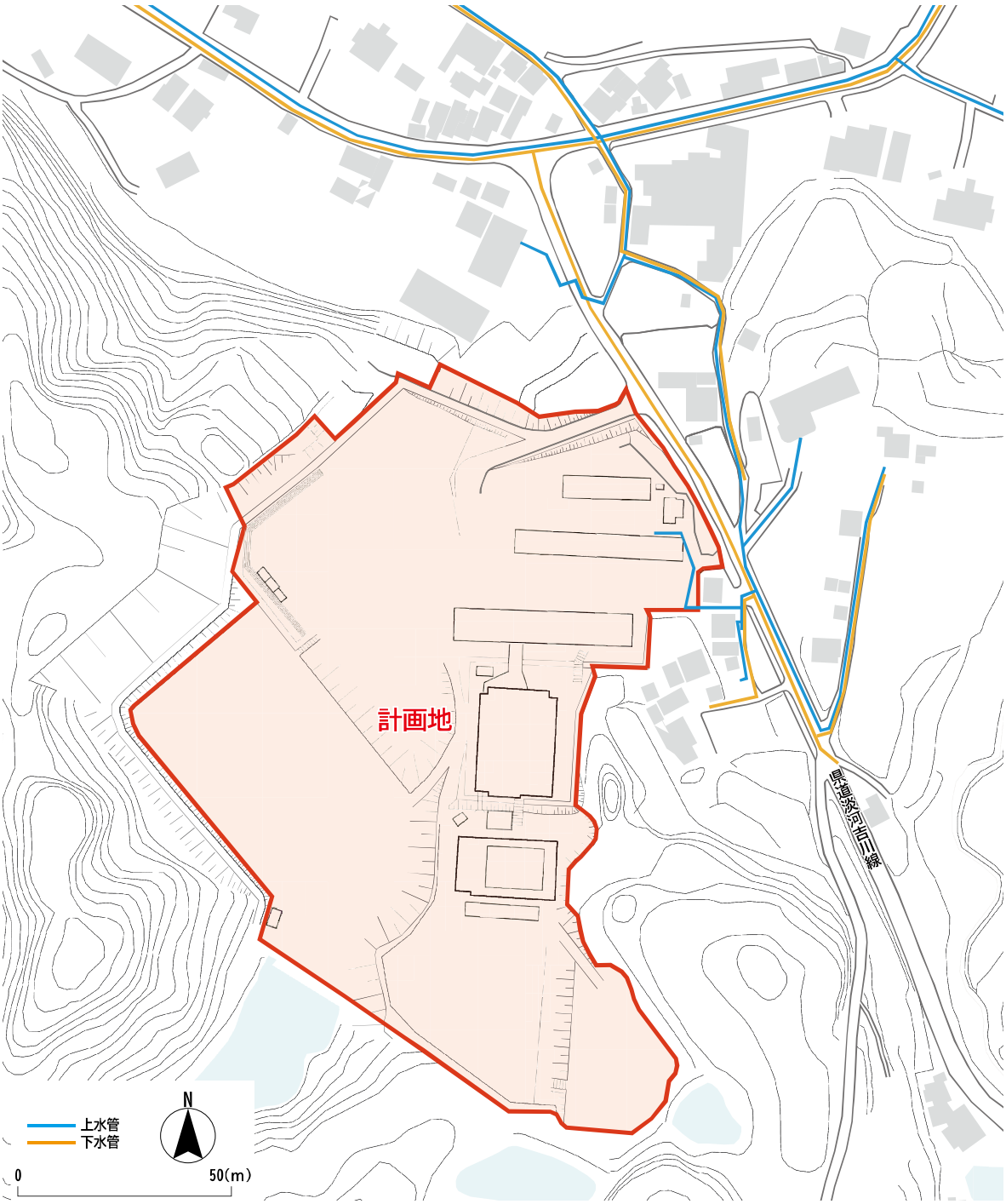
⑦ 敷地内高低差とグラウンド 1：約 6.5mの段差です。

⑧ グラウンド 2：広いグラウンドが整備されており、２つのグラウンド間には高低差があります。

⑨ 奥池：一部埋め立てされたため池となっています。

■敷地周辺インフラ状況

・現況の敷地周辺インフラについて以下に整理します。



(3) 小学校及び中学校の概要

■吉川小学校

〇学校の特色

令和 3 年に上吉川小学校、中吉川小学校、みなぎ台小学校の 3 校統合、令和 4 年に東吉川小学校統合を経て、現在は児童数が 190 名程度の小規模校となっています。地域や保護者は学校教育に対して協力的であり、学校と地域との結びつきも深く、教育、福祉などの施設も整い、地域の人々が相互に連携し、住みよいまちづくりへの努力が積み重ねられています。



［吉川小学校外観］

〇学校教育目標

「こころ豊かに　たくましく　学びを深めあえる子の育成」
～ふるさとを愛し　夢を育む学校づくり～

〇めざす１２歳の児童像

［主体性］ 何事にも前向きに挑戦し、自分で考え行動できる児童
［協働性］ 対話しながら　より良い方向性を見出そうとする児童
［創造力］ 目標や夢をもち、先を見通しながら粘り強く努力する児童

〇校舎

平成 11 年（1999 年）竣工
令和 3 年（2021 年）改修



［吉川小学校校章］

■吉川中学校

〇学校の特色

昭和 33 年に東吉川中学校、中吉川中学校、上吉川中学校の 3 校統合を経て吉川中学校となっています。その後いくつかの改修・改築が行われ、現在の姿となっています。



［吉川中学校外観］

〇校訓

自主・協力・創造

〇学校教育目標

「すすんで学び続け　心身ともにたくましい気概をもった生徒の育成」

〇めざす１５歳の生徒像

［主体性］ 自ら課題を定め、見通しを持って自分を高める生徒
［協働性］ 自他を認め合いながら、より良い方向性を見出そうとする生徒
［創造力］ 柔軟な発想で変化をとらえ、新たな可能性を広げる生徒

〇校舎

昭和 35 年（1960 年）竣工
平成 6 年（2004 年）改修



［吉川中学校校章］

(4) 児童生徒数の推移

■児童生徒数の推移

令和 8 年度において吉川小学校の児童数は 173 人で学級数が 7 クラス、吉川中学校の生徒数は 93 人で学級数が 3 クラス (共に特別支援学級含まない) となっています。
児童生徒数は減少傾向にありますが、特認校指定による、校区外からの通学を考慮すれば、推移数が変わる可能性があります。本計画では 1 学級として計画します。

[吉川小学校]

全学年が 1 学級

開校時

学年	R8年度		R9年度		R10年度		R11年度		R12年度		R13年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	26	1	15	1	27	1	16	1	33	1	20	1
2年	19	1	26	1	15	1	27	1	16	1	33	1
3年	31	1	19	1	26	1	15	1	27	1	16	1
4年	27	1	31	1	19	1	26	1	15	1	27	1
5年	29	1	27	1	31	1	19	1	26	1	15	1
6年	41	2	29	1	27	1	31	1	19	1	26	1
計	173	7	147	6	145	6	134	6	136	6	137	6

※1　35 人学級を基本としています
※2　現校区での見込み人数となっています

[吉川中学校]

全学年が 1 学級

開校時

学年	R8年度		R9年度		R10年度		R11年度		R12年度		R13年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	32	1	41	2	29	1	27	1	31	1	19	1
2年	23	1	32	1	41	2	29	1	27	1	31	1
3年	38	1	23	1	32	1	41	2	29	1	27	1
計	93	3	96	4	102	5	97	4	87	3	77	3

※1　35 人学級を基本としています
※2　現校区での見込み人数となっています

Ⅲ 施設計画

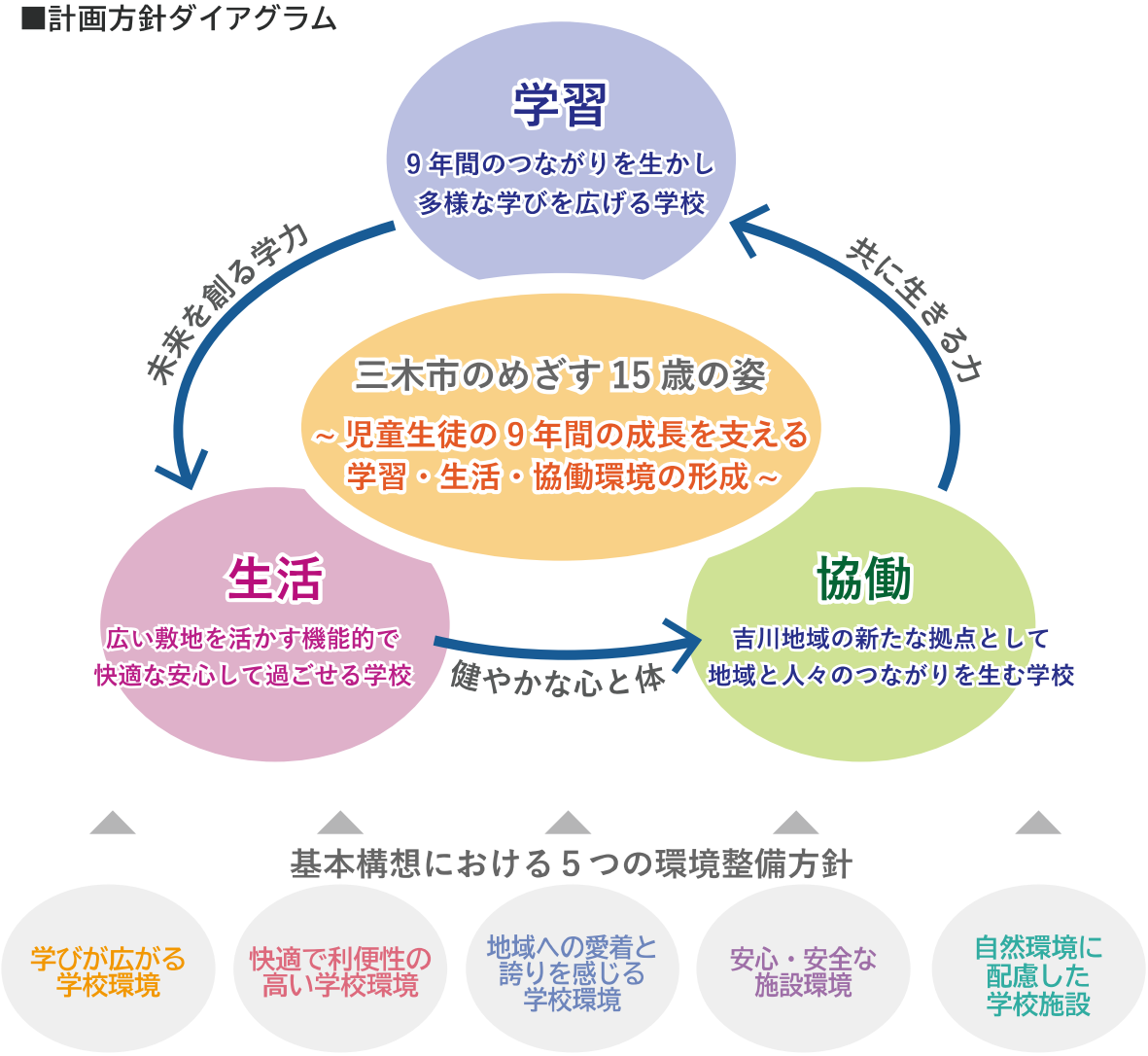
1. 校舎づくりコンセプト

■計画方針

児童生徒の９年間の成長を支える学習・生活・協働の学校づくり

吉川地域の特色を活かした魅力ある学校を実現するため、基本構想における5つの環境整備方針を踏まえ、基本計画では「学習・生活・協働」を校舎づくりのコンセプトとして、建築計画や土地利用方針、施設設計の方向性を定めます。

■計画方針ダイアグラム



Ⅰ. 学習：９年間のつながりを生かし多様な学びを広げる学校

施設一体型義務教育学校のメリットを活かし、学習空間の共有化や、教科の特性に応じた専門的な学習環境の整備を図るとともに、新しく整備される学校施設として、最新の教育ニーズに対応する学習環境と教職員の執務環境を計画します。

① メディアセンターや教科ギャラリーの計画により、日常的に本や教材、情報に触れられる環境づくりを行います。
② 4･3･2制や6･3制などの様々な学年段階の区切りや教科センター方式などの新しい学校運営方式にも対応できる柔軟性のある教室計画とします。
③ 広い教室や教室と連携しやすい特色ある多目的スペースの計画により、多様な学習形態や授業展開に対応できる教育空間計画とします。
④ 特別支援学級やサポートルーム利用者など、全ての児童生徒が共に学びやすいインクルーシブな学び舎とします。
⑤ 1年生から9年生までの発達段階に応じた異学年の交流空間を日常の学校生活の中に計画します。
⑥ 使いやすい集約された職員室などの管理諸室を計画し、教職員の働きやすい環境づくりを行います。
⑦ 教科担任制や乗り入れ授業を想定した特別教室の共有化を計画し、教科学習の専門化と高度化を図ります。

Ⅱ. 生活：広い敷地を活かす機能的で快適な安心して過ごせる学校

広い敷地を活かして児童生徒が安全にのびのびと過ごせる学校環境を計画するとともに、敷地の高低差を考慮した利便性の良い動線及び施設計画とします。また校舎は日当たりや通風を確保した健康的な建物とし、全ての子どもたちが安心して通える環境づくりを行います。

① 広い敷地を活かしたグラウンドやプレイロットの整備、屋内運動場と多目的交流スペースなどの計画により、体格差のある児童生徒の安全な遊び場と運動空間を確保します。
② 敷地の高低差を踏まえた土地利用計画を行い、バリアフリー化を図るとともに、ユニバーサルデザインに配慮します。
③ 歩車分離を徹底した安全な構内環境とするとともに、広い敷地を活かした豊富な駐車場や登下校の利便性と安全性を重視したバスロータリーを整備します。
④ 校内全体を見渡せる管理諸室の配置を行い、可視管理を基本とした安全な学級園を整備します。
⑤ 自然採光、自然通風の確保を前提とした快適で省エネルギーな学校施設とします。
⑥ 兵庫県産木材を用いた内装木質化を計画し、木の温もりある居心地のよい生活環境とします。
⑦ 児童生徒がそれぞれの状況に応じて安心して過ごせる居場所を校内の各所に計画します。

Ⅲ. 協働：吉川地域の新たな拠点として地域と人々のつながりを育む学校

吉川地域の新たな教育･地域活動の拠点として、これまでのコミュニティ･スクールや地域連携学習の取組をさらに推進し、学校と地域のつながりを深めます。また、地域の防災拠点として必要な機能を備え、地域に親しまれ、安心して利用できる学校づくりを進めます。

① 地域の人々と児童生徒の交流･連携の拠点となる多目的交流スペースを計画します。
② 学校運営協議会の関係者やスクールボランティア、PTA･保護者など、学校運営を支援する様々な方々の居場所となる地域･保護者連携推進室を計画します。
③ 学校運営と地域利用を両立する安全かつ利便性のよい地域開放ゾーニングを計画します。
④ 防災拠点として災害時の避難所への機能転換を踏まえた避難所機能･防災機能の計画を行います。
⑤ 既存校の歴史や経緯、記念品を継承するメモリアル交流ホールを計画します。
⑥ 部活動のみきティブへの展開を踏まえた競技空間、設備の計画を行います。
⑦ 学童保育施設を併設し、学校の施設を活用しながら、放課後の児童の安全な居場所と多様な活動の場を確保します。

2. 計画諸室

(1) 所要室の計画方針

■運営方式

・学校の運営方式は義務教育学校とします。

・今後の教育施策や学習指導要領の変化にも対応できるよう中学校課程は教科センター方式への転用も可能な所要室計画とします。

(2) 各室の利用形態

・各室の利用形態について以下に記載します。

普通教室ゾーン	普通教室 (1-2年生)	・教室を中心に学校生活を送りやすいよう、多目的スペースを取込んだ総合学習型の教室とし、書架、ロッカーを設けます。
	普通教室 (3-6年生)	・多目的スペースを活用した授業展開に対応した連携学習型の教室とし、ロッカーや水廻りを適所に設けます。
	普通教室 (7-9年生)	・多目的スペースを活用した授業展開に対応した少人数学習型の教室とし、ロッカーや水廻りは教室外に設置します。
	多目的スペース (3-9年生)	・普通教室・特別支援教室と一体利用しやすい配置とします。 ・図書コーナーや教材収納スペースを設けるとともに可動家具を配置し、目的に応じて自由に使い分けができるように計画します。
	多目的教室	・前期課程2、後期課程1の計3室を計画し、外国語学習やＩＣＴ学習など多目的に利用します。
	特別支援教室	・支援の種別に応じて8学級でも運用できるよう計4室を計画します。（4種別×小中2） ・普通教室への移動・連携に配慮し、エレベーターの利用もしやすい配置とします。
	通級指導教室 プレイルーム	・1室計画します。 ・軽運動も可能なプレイルームを併設した教室とします。
特別教室ゾーン	図書室 (メディアセンター)	・学びと交流の拠点となるメディアセンターは、どの教室からも利用しやすい学校の中心に配置し、児童生徒の日常的な交流や書籍、情報に触れる機会をつくります。
	放送室	・校内放送の機能だけでなく、音響・映像収録、配信などができる図書室と連携したメディアセンター機能の一部として計画します。
	理科室	・小中で分けて利用するだけでなく、講義用途と実験用途など、活動内容によっても使い分けられる2室にて計画します。
	家庭科室	・調理実習と被服実習で兼用可能なサイズを確保した教室とします。
	音楽室	・防音性に配慮した配置とします。
	工芸室	・図工・美術・技術用途での共同利用を考慮した2室にて計画します。
	児童会・生徒会室	・児童会、生徒会の活動の場だけではなく、多目的な会議や学習にも利用可能な室とします。
	多目的交流 スペース （武道場）	・複数学年での学習・交流活動、地域連携学習、地域利用スペースなど、多目的に利用できる計画とします。 ・取り外し可能な畳を利用して武道場利用も可能な計画とします。
	教科ギャラリー	・教材展示や学習成果の発信を通して、多様な学びや交流を促進する空間を計画します。

管理諸室ゾーン	職員室・校長室 事務室・校務員室 ・他	・職員室廻りに教材作成室、教職員休憩室、教職員更衣室、校長室、事務室などを集約して設けた利便性のよい配置とします。 ・グラウンドや門への視界を確保した可視管理に配慮した配置とします。 ・学年ステージ毎にまとまった教材室を設けます。
	保健室	・トイレ、シャワーなどのアメニティスペースを併設した計画とします。 ・緊急車両の寄付きが可能な配置とします。
	カウンセラー室 相談室・指導室	・児童生徒の相談や保護者の面談、来校者対応など、様々な活用が可能な複数の相談室からなる部屋構成とします。
	サポートルーム	・登校しても自分の教室に入りづらい児童生徒に対して、安心して過ごせる場所を提供し、社会的に自立するための支援を行うことを目的とした空間を設けます。
	地域・保護者 連携推進室	・学校ボランティアの控室やＰＴＡ活動、コミュニティ・スクールの運用の場所などとして利用できる会議室を計画します。
共有部	給食保管室	・1階の給食受入口にて受入れを行い、エレベーターを用いて上階に配膳する方式とします。
	児童・生徒更衣室	・普通教室や教科教室からアクセスしやすく、体育授業の際の屋内運動場やグラウンドへの移動動線にも配慮した配置とします。
	メモリアル 交流ホール	・吉川小学校、吉川中学校、吉川高校の歴史や思い出を継承し、児童生徒だけでなく地域が交流できる空間を計画します。
	廊下 階段	・廊下や階段は掲示に適した仕様を選定し、単なる移動空間ではなく、学習や交流にも活用でき、施設全体が学びの場となる空間とします。 ・昇降口や玄関、動線の結節点などにホール空間を設けるとともに、ベンチなどの仕掛けにより、日常的な交流や展示、憩いの場として機能する計画とします。
屋内運動施設ゾーン	アリーナ 器具庫 更衣室･トイレ 防災備蓄倉庫	・アリーナはバレーボールコート2面、ミニバスケットボールコート2面、正式なバスケットコート1面を確保できる大きさ、高さを確保します。 ・アリーナは災害時の避難所となることから、防災備蓄倉庫を併設するとともに屋外からも利用しやすい位置に配置します。 ・地域利用に配慮した配置とします。
屋外運動施設ゾーン	グラウンド 屋外便所 屋外倉庫	・グラウンドは、200mトラック、100m直線、幅跳び助走路・砂場、野球、サッカーを確保します。グラウンド照明設備を整備します。 ・プレイロットは遊具スペースを確保し、低学年児童が安心して遊べる屋外移動空間を整備します。 ・地域利用に配慮した配置とします。
学童保育施設	学童保育室 静養室 倉庫 アメニティスペース	・学童保育室2室、事務室、静養室、倉庫、アメニティスペースを計画します。 ・昇降口からの移動や遊び場となるグラウンドへの動線、車両での送迎に配慮した配置とします。
駐車ゾーン	駐車場 サービス駐車場 駐輪場	・来客、教職員、サービス、スクールバス駐車場を確保します。 ・駐輪場を確保します。

■合計延床面積

・約 8,000 ㎡とします。

3. 構造計画の方針

(1) 計画の方針

・地震等の災害後、構造体などの大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるよう構造上十分安全な計画とします。また多様な学習内容・形態に対応できる可変性のある空間を有した計画とします。

(2) 耐震性能の方針

・国土交通省が定める「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準（平成 25 年)」では学校施設は「多数の者が利用する施設」として以下の安全性の分類基準となっています。

■耐震安全性の分類

施設の用途	対象施設	耐震安全性の分類		
		構造体	建築非構造部材	建築設備
災害対策の指揮、情報伝達などのための施設	指定行政機関が入居する施設 指定地方行政ブロック機関が入居する施設 東京圏、名古屋圏、大阪圏及び地震防災対策強化地域にある指定行政機関が入居する施設	Ⅰ類	A類	甲類
	指定地方行政機関のうち、上記以外のもの及びこれに準ずる機能を有する機関が入居する施設	Ⅱ類		
被災者の救助、緊急医療活動などのための施設	病院関係機関のうち、災害時に拠点として機能すべき施設	Ⅰ類	A類	甲類
	上記以外の病院関係施設	Ⅱ類	A類	甲類
避難所として位置付けられた施設	学校、研究施設などのうち、地域防災計画で、避難所として指定された地域	Ⅱ類	A類	乙類
危険物を貯蔵又は使用する施設	放射性物質又は病原菌類を取り扱う施設、これらに関する試験研究施設	Ⅰ類	A類	甲類
	石油類、高圧ガス、毒物等を取り扱う施設、これらに関する試験研究施設	Ⅱ類	A類	
多数の者が利用する施設	学校施設、社会教育施設、社会福祉施設など	Ⅱ類	B類	乙類
その他	一般官公庁施設 （上記以外のすべての官庁施設）	Ⅲ類	B類	乙類

■耐震安全性の基準

・耐震安全の分類で目指す目標は以下の通りです。

部位	分類	耐震安全性の目標	
構造体	Ⅰ類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	
	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	
	Ⅲ類	大地震動により構造体の部分的な損傷は生ずるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。	
建築非構造部材	A類	大地震動後、災害応急対策活動や被災者の受入れの円滑な実施、又は危険物の管理のうえで、支障となる建築非構造部材の損傷、移動などが発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	
	B類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動などが発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られている。	
建築設備		甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていると共に、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できる。
		乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られている。

■新校での耐震安全性の目標

・耐震安全性の分類では、避難所として位置付けられていない学校施設（多数の者が利用する施設）の非構造部材は、B類であるが、新校では災害時に校舎を避難所として活用する計画のため、A類とします。
・また性能を確保する上では文部科学省「小学校・中学校施設整備指針（令和4年6月）」などにも留意するとともに、維持管理に配慮した構造計画を行います。

	構造体	建築非構造部材	建築設備
学校機能	Ⅱ類	A類	乙類
避難施設機能　※屋内運動場など			

(3) 構造方式の方針

・鉄筋コンクリート造（ＲＣ造）を主体とします。

4. 設備計画の方針

(1) 計画の方針

・新校の電気設備及び機械設備計画は以下の方針とします。

■維持管理への配慮
・メンテナンスの容易さや将来的に容易に改修できる設備スペースの考え方を構築します。

■経済性への配慮・省エネルギー化の推進
・ランニングコストの低減化を図ることのできる高効率機器などを採用します。

■環境配慮
・基本構想コンセプト「自然環境に配慮した学校施設」を踏まえ、再生エネルギーの活用に際して地球環境について理解を深められる設備計画を導入します。

■災害時における継続利用
・災害時の「避難所」としての役割を担うことのできる防災設備を構築します。

(2) 電気設備計画の方針

■照明・電灯・コンセント設備
・ＬＥＤ照明システム制御や人感センサー点滅制御などを通して省エネ化を図ります。
・自然採光を積極的に確保します。

■情報通信・映像・音響設備
・1人1台端末教育に対応したICT環境整備（高速大容量の通信ネットワーク）を行います。
・アリーナ、多目的交流スペースなどは、投影・式典に対応した映像・音響設備を構築します。
・各教室は、電子黒板や黒板一体型プロジェクターなど、教育設備の設置に対応した電力・情報設備を設けます。

■電話・校内放送・拡声設備
・校内内線電話設備への設置を検討します。
・職員室から校舎内、グラウンド及び屋内運動場へ音声放送可能な放送設備を設けます。
・１－６年生と７－９年生でチャイムや校内放送を区分できる仕様とします。
・非常・業務用兼用放送設備を導入し、非常時の校内放送と日常の連絡放送を両立します。

■その他設備
・太陽光発電設備を導入し、発電量表示モニターによる見える化を行います。
・アリーナなどの避難所エリアに太陽光発電から給電可能な非常コンセントを設けます。

(3) 機械設備計画の方針

■空調設備
・ 室ごとの目的に応じた適切な空調設備を選定します。
・ 室ごとで個別運転や管理が容易な設備システムを構築します。
・ 地域開放時の管理運営を考慮し、利用範囲ごとに空調を制御できるゾーニングを計画します。
・ 熱中症対策や避難所利用を考慮し、アリーナや多目的交流スペースへの空調設備の設置を検討します。

■換気設備
・ 室ごとの目的に応じた適切な換気設備を選定します。
・ 普通教室、屋内運動場には積極的に自然換気設備を設置し高温多湿対策を講じます。

■給排水設備
・ 給水方式は受水槽方式とし、児童・生徒・教職員人数に対応した容量とします。
・ 排水は敷地東側の県道淡河吉川線に埋設されている公共下水への放流を基本とします。
・ 節水型器具を積極的に採用します。
・ 保健室などに局所給湯設備（シャワー）を設けます。

■その他の設備
・下水道直結型のマンホールトイレを計画するとともに、防災井戸などの非常用水の確保を検討します。

(4) セキュリティ計画の方針

・地域に開かれた学校を目指し、見通しのよい施設配置・外構計画を基本とするとともに、死角や出入り口には防犯カメラ等を設置します。

■見守りカメラ
・管理諸室の適所への配置により可視管理を図りながら、死角となる場所はカメラを設置し、モニターを職員室に設置して管理します。

■門扉など
・正門、通用門など敷地出入口にインターホンや電気錠を設けた門扉を設置します。

■地域開放エリア
・学校管理区画と地域開放区画を適切に分離しながら、地域利用が可能となるよう、地域玄関や図書室等への電気錠（スマートロック）の導入を検討します。

(5) 省エネ基準・ZEB化の方針

・地球温暖化対策のため、我が国は「2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。地方公共団体においても政府実行計画の趣旨を踏まえた率先的な取り組みが行われることを期待されています。
（環境省 ZEB　PORTAL より抜粋）

・令和 7 年 4 月の法改正により、全ての建築物は省エネ基準への適合が義務付けられました。また、令和 8 年 4 月からは、中規模非住宅建築物の省エネ基準が引き上げられ、学校用途における一次エネルギー消費量基準（BEI）は 1.0 から 0.8 に強化されています。

・ZEB とは Net Zero Energy Building の略称で省エネによってエネルギー消費を大幅に減らし、創エネによってエネルギー収支をゼロにすることを目指す建物を指します。省エネと創エネの達成度合いによって 4 段階があり、現状義務化には至っていないものの、国交省官庁営繕（新築）において ZEB Oriented 相当以上を規定する等、公共施設への導入が進んでいます。

・本計画においては、エコスクール（自然環境に配慮した学校施設）への取り組みやランニングコスト低減を目指し、ZEB READY 相当の環境性能を目指します。

■ZEBの分類



BEI≦0.00
・約500Kwの太陽光発電機が必要

0.00≦BEI≦0.5
・約250Kwの太陽光発電機が必要

BEI≦0.5
エコスクールプラス（8%単価加算）対象

BEI≦0.6
・延べ面積10,000㎡以上の建築物に適用
・学校施設では40%以上の一次エネルギー消費量削減

［出典：環境省　ZEB　PORTAL］

■中大規模非住宅建築物省エネ基準

用途	工場等	事務所等・学校等・ホテル等・百貨店等	病院等・飲食店等・集会場等
BEI	0.75	0.8	0.85

［参考：省エネ基準適合義務制度の解説］

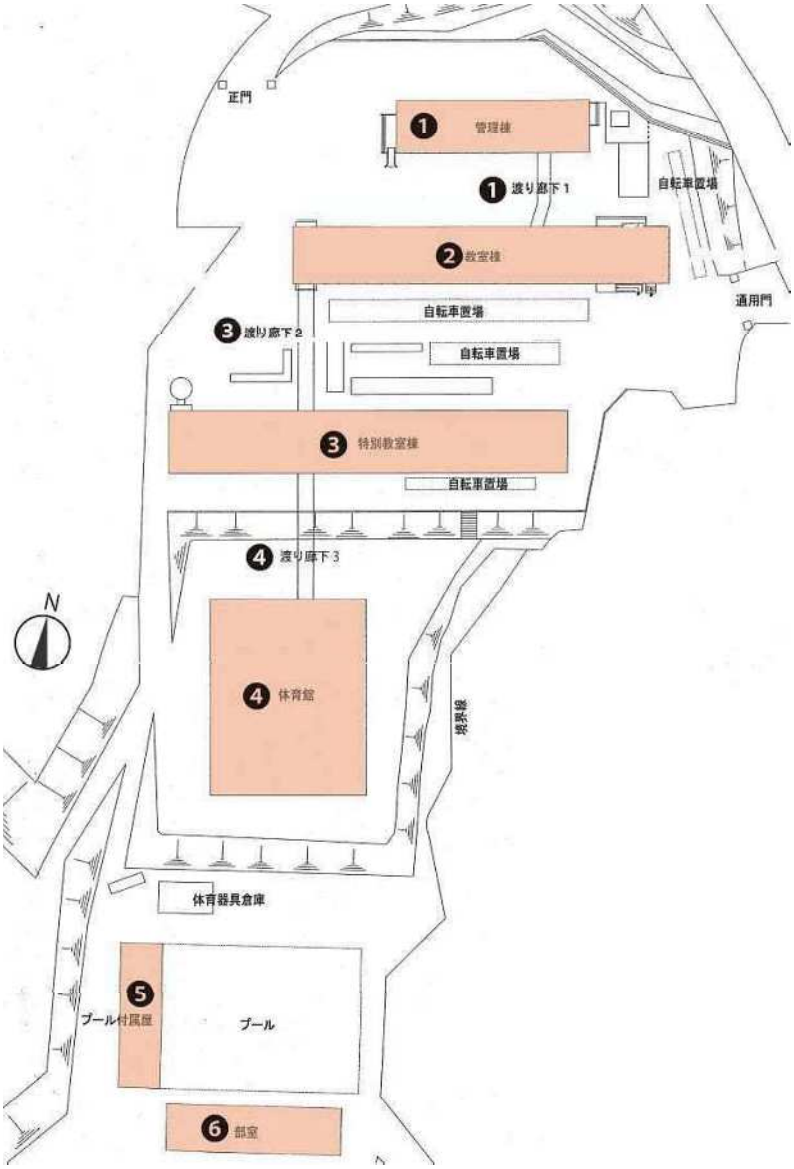
Ⅳ 配置・平面ゾーニング計画

1. 敷地利用計画・配置計画

(1) 既存施設の活用の検討

■施設概要

・既存校舎の活用の検討にあたり、建物概要を整理します。



❶ 管理棟・渡り廊下1



鉄筋コンクリート造４階建て
床面積 約1,440㎡

昭和51年　建設
昭和54年　3､4階増築
平成26年　耐震補強

❷ 教室棟



鉄筋コンクリート造3階建て
床面積 約2,190㎡

昭和47年　建設
平成26年　耐震補強

❸ 特別教室棟・渡り廊下2



鉄筋コンクリート造４階建て
床面積 約3,740㎡

昭和50年　建設
平成23年　耐震補強

❻ 部室



コンクリートブロック造2階建て
床面積 約220㎡

昭和56年　建設

❺ プール付属屋



ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造平屋建て
床面積 約70㎡

昭和55年　建設

❹ 体育館棟・渡り廊下3



鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造一部鉄骨造2階建て
床面積 約2,190㎡

昭和51年　建設
平成21年　耐震補強

■諸室概要
・各建物の所要室を整理します。

❶ 管理棟・渡り廊下1

4階：普通教室３室、便所
3階：普通教室３室、便所
2階：図書室、司書室、進路指導室、便所
1階：玄関、事務室、校長室、応接室、便所

❷ 教室棟

3階：普通教室６室、生徒会室、便所
2階：普通教室６室、教材室、便所
1階：昇降口、保健室、放送室、生徒指導室、校務員室、職員室、電算室、湯沸室、更衣室、便所

❸ 特別教室棟・渡り廊下2

4階：音楽室、音楽準備室、ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ室４室、教材室、第二書道教室、コンピュータ室、準備室、便所
3階：化学教室、化学準備室、教材室、生物教室、生物準備室、物理教室、物理準備室、便所
2階：美術室、美術準備室、教材室、視聴覚室、視聴覚準備室、社会科教室、社会科準備室、便所
1階：被服室、調理室、被服調理準備室、作法室（和室）、書道教室、書道準備室、便所

❹ 体育館棟・渡り廊下3

2階：体育館（29M×32M）、ステージ、器具庫、玄関
1階：柔道場、剣道場、柔剣道場更衣室、更衣室２室、生徒集会室、厨房、便所、屋外便所

❺ プール付属屋

1階：更衣室２室、便所、機械室

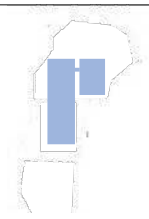
❻ 部室

2階：部室１０室
1階：部室１０室

※各棟の構造種別、床面積は図面からの読み込みのため、申請書類等と整合しない可能性があります。

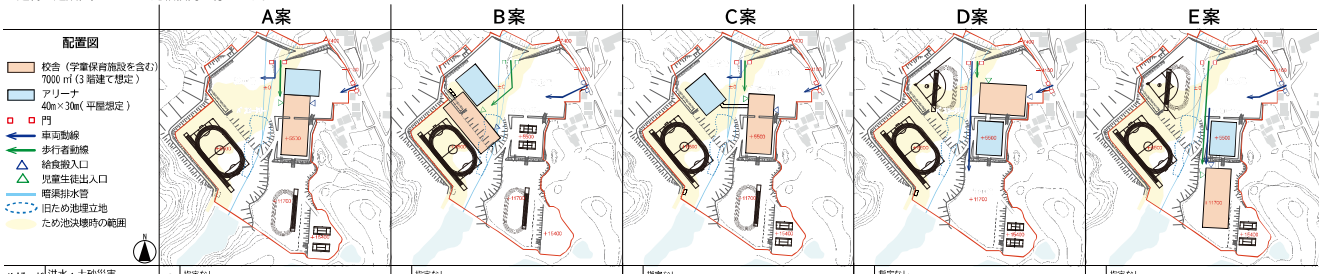
※建築確認申請については、昭和56年の部室が最新と思われますが、現状確認できているのは昭和54年の管理棟増築時の計画通知書となります。

■既存施設活用の比較検討
・既存校舎の活用の検討にあたり、比較検討を行います。
・プールについては新校整備にあたり不要なため、撤去を前提とします。

		全て新築した場合	校舎及び体育館を活用する場合	体育館のみ活用する場合	校舎の一部を活用する場合		
					管理棟を活用する場合	教室棟を活用する場合	特別教室棟を活用する場合
配置イメージ							
工事内容	新築（増築）	・全て新築	・多目的交流スペース ・学童保育施設	・校舎	・校舎 ・屋内運動場	・校舎 ・屋内運動場	・校舎 ・屋内運動場
	改修	・なし	・長寿命化改修 ・バリアフリー改修（ＥＶ・トイレ） ・階段の滑り止め措置 ・アリーナ空調	・長寿命化改修 ・バリアフリー改修（ＥＶ・トイレ） ・階段の滑り止め措置 ・アリーナ空調	・長寿命化改修 ・バリアフリー改修（トイレ） ・階段の滑り止め措置	・長寿命化改修 ・バリアフリー改修（トイレ） ・階段の滑り止め措置	・長寿命化改修 ・バリアフリー改修（トイレ） ・階段の滑り止め措置
	撤去	・全て撤去	・プール	・校舎 ・プール、部室	・校舎の一部、体育館 ・プール、部室	・校舎の一部、体育館 ・プール、部室	・校舎の一部、体育館 ・プール、部室
懸念点	学習環境	・全て新築のため特に課題なし	・新しい教育形態への対応（多目的スペースの確保）が困難 ・教室面積が決まっているため1人あたりの好ましい必要面積が確保できない	・空調を設置すれば特に課題なし	・新しい教育形態への対応（多目的スペースの確保）が困難 ・教室面積が決まっているため1人あたりの好ましい必要面積が確保できない	・同左	・新しい教育形態への対応（特別教室廻りの展示スペースの確保）が困難
	学校運営	・全て新築のため特に課題なし	・分棟形式のため、渡り廊下での移動経路となり不便性が残る	・特に課題なし	・活用した棟までの移動距離がある、部屋の配置によっては不便性が生じる可能性がある	・同左	・同左
	土地利用	・全て新築のため特に課題なし	・地域開放や避難所利用を考慮すると体育館は道路からアクセスしやすい位置が好ましい	・同左	・学童保育や地域開放室を中心に配置する等、活用法に検討が必要	・同左	・敷地の中央部で新築建物に挟まれる形となり、工事が行いにくく渡り廊下での移動距離も長い
	将来工事	・全て新築のため特に課題なし	・20年後の建物更新の際、居ながら工事となるため、仮設校舎が必要となる可能性がある、また工事動線と学校動線の分離が困難	・20年後の建物更新の際、敷地奥の工事範囲となるため、工事動線と学校動線の分離が困難	・20年後の建物更新の際、居ながら工事となるため、仮設校舎が必要となる可能性がある、また工事動線と学校動線の分離が困難	・同左	・同左
	間取りの自由度	・全て新築のため特に課題なし	・耐震補強済みのため、原則壁の撤去や増設ができない	・同左	・同左	・同左	・同左
	安全性の担保	・全て新築のため特に課題なし	・現時点で建築確認資料が所在不明	・同左	・同左	・同左	・同左
80年ﾗｲﾌｻｲｸﾙｺｽﾄ		1.00	1.52	1.07	1.09	1.13	1.14
検討結果		・既存校舎を活用した場合、20年後の建物更新時に居ながら工事が必要となります。敷地条件より接道が2ヶ所しかないため、学校運営や安全性の確保に課題が生じます。 ・2030年からの80年ライフサイクルを考慮した場合、全て新築が最安となります。					

(2) 建設位置の方針

・建物の建設位置について比較検討を行います。



		A案	B案	C案	D案	E案
ハザードマップ	洪水・土砂災害	○ 指定なし	× 指定なし	× 指定なし	○ 指定なし	△ 指定なし
	ため池決壊（奥池）	歩行可能区域	全体が歩行不可能区域	屋内運動場が歩行困難区域	歩行可能区域	歩行可能区域
法的規制	開発許可要件	特に懸念なし	グラウンド部に建物を建てるため地盤面の変更が生じる	グラウンド部に建物を建てるため地盤面の変更が生じる	特に懸念なし	特に懸念なし
	日影規制	○ 敷地境界から離隔距離により対応可能	△ 特に懸念なし	○ 敷地境界から離隔距離により対応可能	○ 敷地境界から離隔距離により対応可能	○ 敷地境界から離隔距離により対応可能
	がけ地の安全措置	がけ地なし	校舎西側がけ地からの離隔距離必要	がけ地なし	がけ地なし	がけ地なし
インフラ	上下水道・電力幹線	○ 幹線（県道浜河吉川線）から近い	△ 幹線（県道浜河吉川線）から距離がある	△ 幹線（県道浜河吉川線）から距離がある	○ 幹線（県道浜河吉川線）から近い	△ 幹線（県道浜河吉川線）から距離がある
埋設物等	旧ため池埋立地	建物の干渉なし	建物が干渉する	建物の干渉なし	建物の干渉なし	建物の干渉なし
	暗きょ排水管	○ 建物の十歩の恐れなし	△ 建物の十歩の恐れあり	○ 建物の十歩の恐れあり	○ 建物の十歩の恐れなし	○ 建物の十歩の恐れなし
	既存建物杭	干渉の恐れあり（引き抜きにて対応）	干渉の恐れなし（存置が可能）	一部干渉の恐れあり（引き抜きにて対応）	干渉の恐れあり（引き抜きが必要）	一部干渉の恐れあり（引き抜きが必要）
既存施設の活用	建物	新論校舎と干渉するため活用しにくい	新論校舎と離れるため活用しにくい	部分的に活用できる可能性がある	屋外運動場は活用しやすい	屋内運動場は活用しやすい
	グラウンド	△ そのまま活用できる	△ 一部改修が必要だが活用できる	○ そのまま活用できる	○ そのまま活用できる	○ そのまま活用できる
	工作物（擁壁・排水施設等）	活用しやすい	活用しやすい	活用しやすい	活用しやすい	活用しやすい
動線	歩車分離	認定道路部分で歩車共用となる	分離しやすい	認定道路部分で歩車共用となる	駐車場が奥にあり歩車混同の懸念が高い	給食車両動線がアクセスしにくい
	地域利用動線（屋内運動場と駐車場の近さ）	○ 明快といえる	○ 明快といえる	○ 明快といえる	△ 屋内運動場にアクセスしにくく、バリアフリーの課題も生じる	△ 屋内運動場にアクセスしにくく、バリアフリーの課題も生じる
	敷地内高低差の解消	建物内ＥＶによる段差解消が可能	A案に比べ段差解消できない部分が生じる	建物内ＥＶによる段差解消が可能	建物内ＥＶによる段差解消が可能	A案に比べ段差解消できない部分が生じる
教育環境（校舎）	建物延長池の面積的ゆとり（敷数の自由度や中度の確保）	広く確保できる	グラウンド確保や雨水排水量の関係で広く確保できない	広く確保できる	広く確保できる	校舎廻りは余裕がない
	教室の日当たり	○ 南北軸のため工夫が必要	○ 東西軸のため確保しやすい	△ 南北軸のため工夫が必要	△ 南側に屋内運動場があり工夫が必要	○ 南北軸のため工夫が必要
	施設間の移動	コンパクトで短い	コンパクトで短い	校舎と屋内運動場に渡り廊下が必要	コンパクトで短い	コンパクトで短い
	職員室等からの敷地内見通し	配置に工夫が必要	見渡しやすい	見渡しやすい	南側に屋内運動場があり、駐車場が見渡しにくい	北側に屋内運動場があり、駐車場が見渡しにくい
教育環境（屋外）	グラウンドの大きさ・形状	○ メイングラウンド、サブグラウンド、テニスコートを整形で広く確保できる	△ A案に比べるとメイングラウンド面積が小さい	○ メイングラウンド、サブグラウンド、テニスコートを整形で広く確保できる	○ メイングラウンド、サブグラウンド（野球場）、テニスコートを整形で広く確保できる	○ メイングラウンド、サブグラウンド（野球場）、テニスコートを整形で広く確保できる
	グラウンドの日当たり	南側が開けており良好	南側が開けており良好	南側が開けており良好	南側が開けており良好	南側が開けており良好
	グラウンドへの校舎からの距離	約 75m	約 50m	約 75m	約 50m	約 50m
周辺環境配慮	交通	現況とほぼ変わらない	車両出入口部の交通量増加が懸念される	車両出入口部の交通量増加が懸念される	現況とほぼ変わらない	車両出入口部の交通量増加が懸念される
	日影	現況とほぼ変わらない	影響はほぼない	現況より改善される	現況とほぼ変わらない	影響はほぼない
	プライバシー・圧迫感・騒音（実際住宅までの距離）	○ 離れている（50m）	○ 十分離れている（100m）	△ 離れている（50m）	△ 近い（30m）	○ 離れている（50m）
	グラウンドの砂塵（南風）	現況とほぼ変わらない	建物位置が変わるため構加が懸念される	現況とほぼ変わらない	現況とほぼ変わらない	建物位置が変わるため構加が懸念される
将来性	増築対応性（面積）	○ 駐車場部分	○ 駐車場部分	○ 駐車場部分	△ 駐車場部分となるが敷地の奥となる	○ 駐車場部分
	増築対応性（接道）	確保は可能	2 ヶ所の接道部分をつないだ構内道路を構築しやすい	2 ヶ所の接道部分をつないだ構内道路を構築しやすい	確保しにくい	2 ヶ所の接道部分をつないだ構内道路を構築しやすい
総合評価		◎	×	×	△	○

検討結果

・B案・C案は、ため池決壊による浸水想定区域に建物があることから不適と考えます。
・D案・E案は、グラウンド形状（野球の競技スペース確保）において利点があるものの、動線（歩車分離やバリアフリー）について懸念点があります。
・A案は、既存施設の活用が難しい点がありますが、その他においてはデメリットが少ない案といえます。

(3) 施設配置の方針

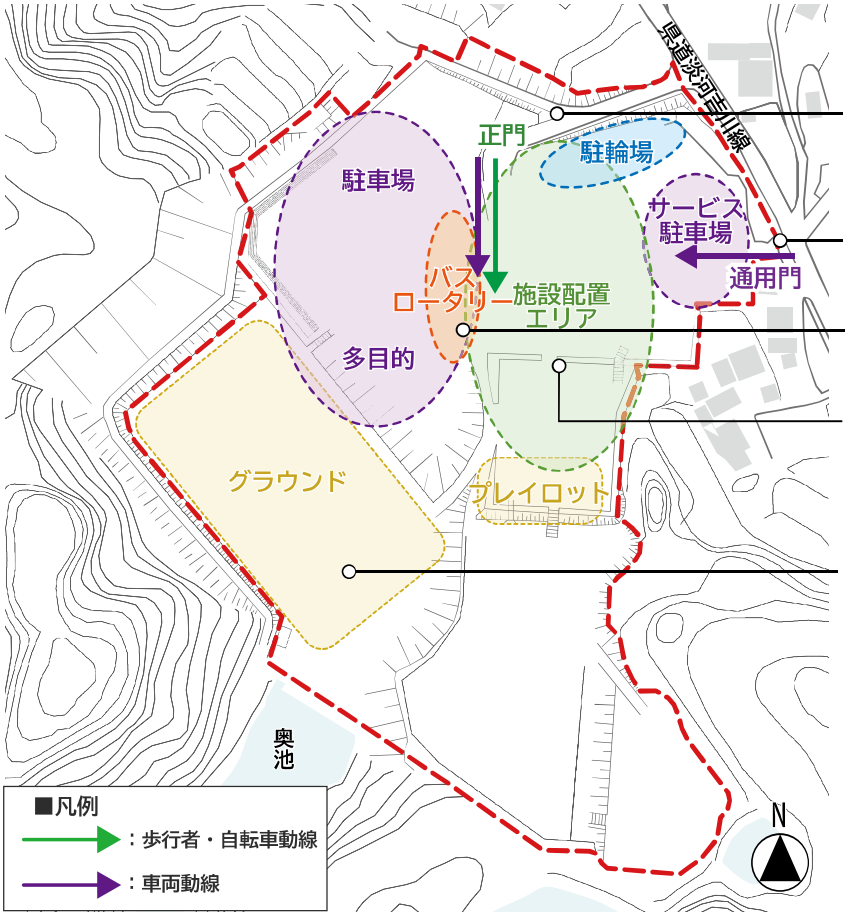
・建設位置の方針を踏まえて計画地における施設配置について整理します。

■土地利用方針

・東側県道、敷地内通路の両方からアクセスのしやすい北側中央部に校舎を配置します。
・十分な駐車台数を確保できる敷地北西部に教職員・来客・スクールバス駐車場を配置します。
・スクールバス通学の利便性に配慮し、校舎に隣接してバスロータリーを配置します。
・東側県道から直接アクセスできる敷地北東部に給食搬入車両等のサービス車両用駐車場を配置します。
・グラウンドは広く、整形で使いやすい形状を確保できる敷地南西部に配置します。
・児童生徒の体格差に配慮し、校舎に隣接して低学年児童の遊び場となるプレイロットを設けます。

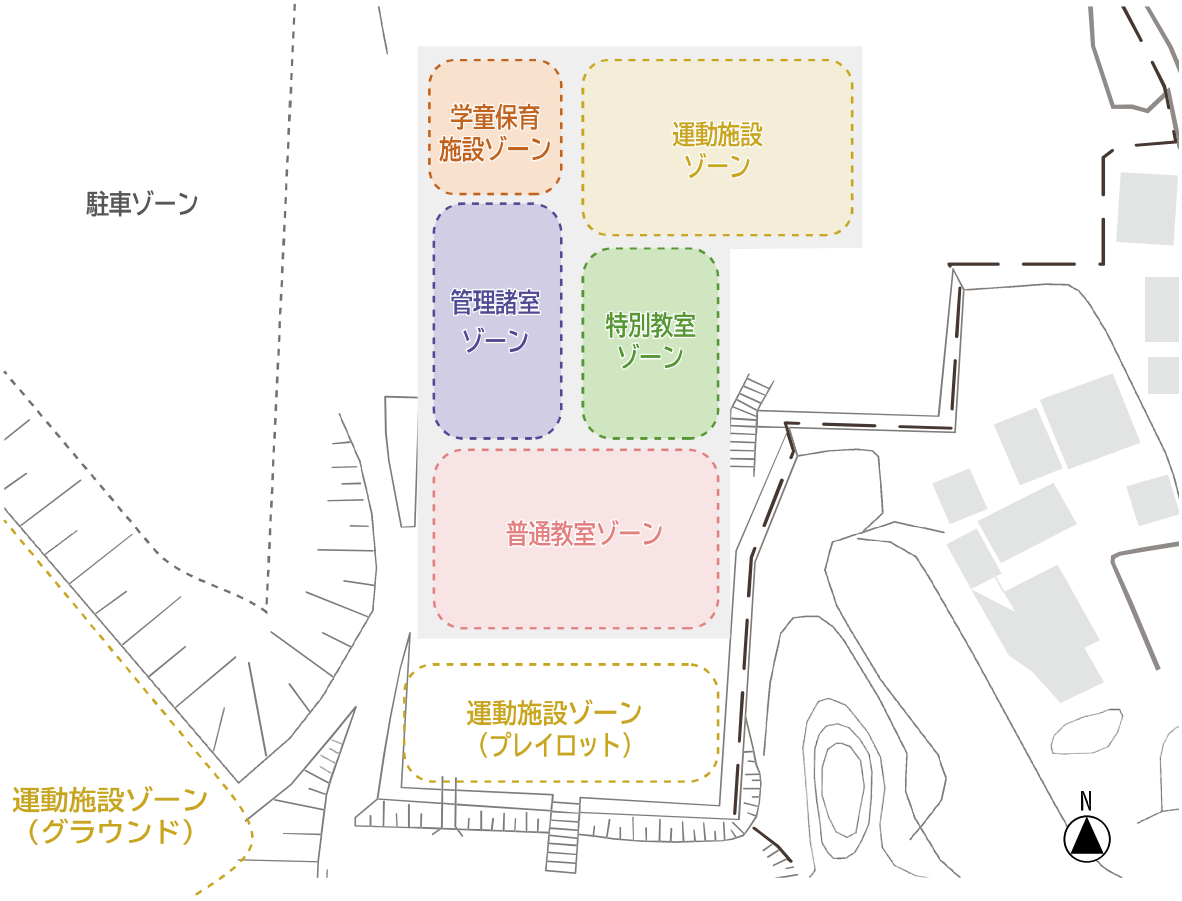
■動線方針

・歩車分離を基本とし、安全確保を最優先とした動線計画とします。
・北側敷地内通路に正門を設け、歩行者・自転車と一般車両・スクールバスの動線を分離します。
・東側県道に面して通用門を設け、給食搬入車両、その他サービス車両の動線とします。
・敷地内の高低差を踏まえ、緩やかな階段やスロープ、建物エレベーターなどによりバリアフリー化を行います。



(4) ゾーニングの検討

・建設位置、施設配置の方針を踏まえて校舎のゾーニング構成について整理します。



普通教室ゾーン

・前期課程、後期課程及び特別支援教室のまとまりに配慮した配置とします。
・普通教室との連携に配慮した多目的教室・特別支援教室の配置とします。

特別教室ゾーン

・地域開放の優先度や、普通教室からの移動に配慮した配置とします。
・図書室は普通教室ゾーンからの移動や動線に配慮した配置とします。

駐車ゾーン

・歩車分離を確実に行いながら、敷地内に教職員・来客・サービス用駐車場を配置します。

運動施設ゾーン

・地域開放や避難所機能を考慮して屋内運動場を配置します。
・グラウンドと低学年用のプレイロットを設け、安全に使い分けができる配置とします。

管理諸室ゾーン

・学校全体が見渡せ、各教室に移動しやすい位置に配置します。
・相談室、サポートルームは、一般児童生徒との動線の交錯の生じにくい配置とします。

学童保育施設ゾーン

・児童・生徒昇降口や駐車場への動線に配慮しながら校舎内に配置します。

（5）コンセプトの具現化

Ⅰ．学習：９年間のつながりを生かし多様な学びを広げる学校

施設一体型義務教育学校のメリットを活かし、学習空間の共有化や、教科の特性に応じた専門的な学習環境の整備を図るとともに、新しく整備される学校施設として、最新の教育ニーズに対応する学習環境と教職員の執務環境を計画します。

① メディアセンターや教科ギャラリーの計画により、日常的に本や教材、情報に触れられる環境づくりを行います。
② 4･3･2制や6･3制などの様々な学年段階の区切りや教科センター方式などの新しい学校運営方式にも対応できる柔軟性のある教室計画とします。
③ 広い教室や教室と連携しやすい特色ある多目的スペースの計画により、多様な学習形態や授業展開に対応できる教育空間計画とします。
④ 特別支援学級やサポートルーム利用者など、全ての児童生徒が共に学びやすいインクルーシブな学び舎とします。
⑤ 1年生から9年生までの発達段階に応じた異学年の交流空間を日常の学校生活の中に計画します。
⑥ 使いやすい集約された職員室などの管理諸室を計画し、教職員の働きやすい環境づくりを行います。
⑦ 教科担任制や乗り入れ授業を想定した特別教室の共有化を計画し、教科学習の専門化と高度化を図ります。

［イメージ］


［①メディアセンター］


［②教科ギャラリー］


［③多目的スペース］



［⑤サポートルーム］


［⑥職員室］


［⑦工芸室（図工＋美術＋技術）］

Ⅱ. 生活：広い敷地を活かす機能的で快適な安心して過ごせる学校

広い敷地を活かして児童生徒が安全にのびのびと過ごせる学校環境を計画するとともに、敷地の高低差を考慮した利便性の良い動線及び施設計画とします。また校舎は日当たりや通風を確保した健康的な建物とし、全ての子どもたちが安心して通える環境づくりを行います。

① 広い敷地を活かしたグラウンドやプレイロットの整備、屋内運動場と多目的交流スペースなどの計画により、体格差のある児童生徒の安全な遊び場と運動空間を確保します。
② 敷地の高低差を踏まえた土地利用計画を行い、バリアフリー化を図るとともに、ユニバーサルデザインに配慮します。
③ 歩車分離を徹底した安全な構内環境とするとともに、広い敷地を活かした豊富な駐車場や登下校の利便性と安全性を重視したバスロータリーを整備します。
④ 校内全体を見渡せる管理諸室の配置を行い、可視管理を基本とした安全な学級園を整備します。
⑤ 自然採光、自然通風の確保を前提とした快適で省エネルギーな学校施設とします。
⑥ 兵庫県産木材を用いた内装木質化を計画し、木の温もりある居心地のよい生活環境とします。
⑦ 児童生徒がそれぞれの状況に応じて安心して過ごせる居場所を校内の各所に計画します。

［イメージ］


［①広くて整形なグラウンド］


［①プレイロット］


［②敷地内スロープ］


［④学級園］


［⑥内装木質化］


［⑦ベンチコーナー］

Ⅲ. 協働：吉川地域の新たな拠点として地域と人々のつながりを育む学校

吉川地域の新たな教育・地域活動拠点として、これまでのコミュニティ・スクールや地域連携学習の取組をさらに推進し、学校と地域のつながりを深めます。また、地域の防災拠点として必要な機能を備え、地域に親しまれ、安心して利用できる学校づくりを進めます。

① 地域の人々と児童生徒の交流・連携の拠点となる多目的交流スペースを計画します。
② 学校運営協議会の関係者やスクールボランティア、PTA・保護者など、学校運営を支援する様々な方々の居場所となる地域・保護者連携推進室を計画します。
③ 学校運営と地域利用を両立する安全かつ利便性のよい地域開放ゾーニングを計画します。
④ 防災拠点として災害時の避難所への機能転換を踏まえた避難所機能・防災機能の計画を行います。
⑤ 既存校の歴史や経緯、記念品を継承するメモリアル交流ホールを計画します。
⑥ 部活動のみきティブへの展開を踏まえた競技空間、設備の計画を行います。
⑦ 学童保育施設を併設し、学校の施設を活用しながら、放課後の児童の安全な居場所と多様な活動の場を確保します。

［イメージ］


［①多目的交流スペース］


［②地域・保護者連携推進室］


［③地域開放時のスマートロック］


［④防災拠点となるアリーナ］


［⑤メモリアル交流ホール］


［⑦学童保育施設］

Ⅴ 付加機能

1. 地域開放機能

(1) 計画の方針

・現状の地域開放状況を整理するとともに、計画コンセプトにおける「地域の新たな拠点づくり」の実現をめざし、新校における地域利用の方針について検討します。

■現状の地域開放状況

・既存の吉川小学校、吉川中学校では、市民の社会体育振興を目的としたグラウンド、屋内運動場の開放が主に行われています。

・校舎内の特別教室や会議室の一般市民向けの利用はほぼ行われていない状況です。

	開　放　施　設
１次開放エリア （生涯スポーツ対応）	グラウンド・屋内運動場 などの運動施設
２次開放エリア （地域連携・災害時考慮）	多目的交流スペース・家庭科室 などの特別教室の一部
３次開放エリア （出前授業・地域連携対応）	音楽室・工芸室・図書室 などの特別教室

［学校における開放部分について］

■これからの学校づくりの視点

・これからの学校づくりにおいては、学校と家庭・地域が連携・協力し地域全体で子どもたちの成長を支えるために、地域の方々が日常的に立ち寄りやすく利用しやすい施設計画とすることが重要です。

・現在行われている運動施設の開放に加え、多目的交流スペースや特別教室等についても、地域利用を想定した開放範囲を設定します。

・部活動の地域展開を踏まえグラウンドや屋内運動場を地域クラブが利用しやすい計画を行います。



［1 次開放（運動施設）イメージ］



［2 次開放（調理室）イメージ］



［3 次開放（図書室）イメージ］



［地域･保護者連携推進室イメージ］

吉川小学校の地域利用状況

グラウンド：	週1回程度グラウンドゴルフで利用
屋内運動場：	夜間週4日程度バレー、卓球、ビックルボールで利用
PTA活動の場：	１階多目的教室を利用
教室：	年間数回の学校イベント時に餅つきやぜんざいの炊き出しに家庭科室を外部の方が利用
その他：	老人会での体育館利用がある、地域の出前授業では普通教室や１階多目的教室を利用

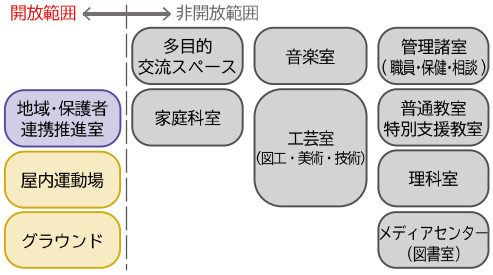
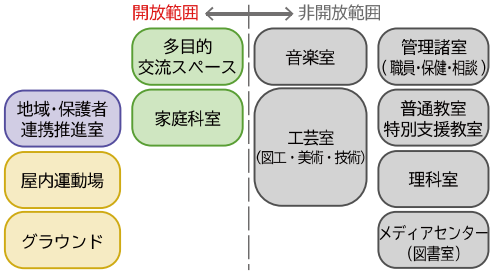
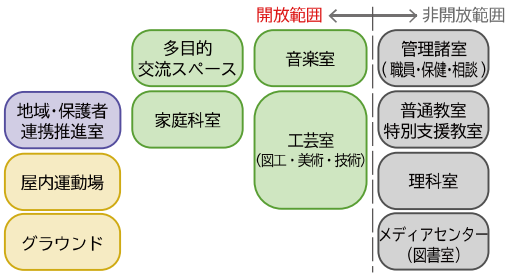
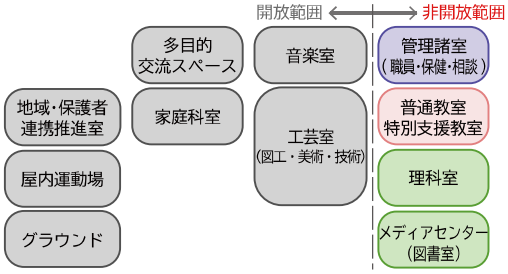
吉川中学校の地域利用状況

グラウンド：	週3回程度サッカーで利用、野球で週1回程度利用
屋内運動場：	夜間週4日程度バレー、バスケットで利用
PTA活動の場：	人数が少ないときは校長室・会議室を利用、人数が多いときは社会科教室を利用
教室：	特になし
その他：	地域の出前授業では普通教室や社会科教室を利用

［現状の開放状況］

(2) 地域開放範囲の考え方

・地域開放方針を踏まえ、新校における地域開放範囲について検討します。
・地域開放時間については、放課後及び休日における利用を基本とします。
・地域・保護者連携推進室はコミュニティ・スクール運営のため平日日中も利用します。

	開放施設	特徴	
1次開放エリア		開放施設	グラウンド+屋内運動場 +地域・保護者連携推進室
		特徴	従来の社会体育開放に地域連携の活動場所となる会議室を加えたもの
		検討課題	・地域玄関や体育館玄関の計画と鍵の管理方法 ・非開放エリアとの区画方法
2次開放エリア		開放施設	１次開放範囲+ 多目的交流スペース+家庭科室
		特徴	地域連携学習における集会機能と調理設備の災害時活用を考慮したもの
		検討課題	・地域玄関の計画と鍵の管理方法 ・非開放エリアとの区画方法
3次開放エリア		開放施設	１次・２次開放範囲+ 音楽室+工芸室
		特徴	音楽、創作系の特別教室の開放を想定したもの
		検討課題	・地域玄関や地域利用動線の計画と鍵の管理方法 ・非開放エリアとの区画
非開放エリア		開放施設	職員室や保健室、相談室等の管理諸室 普通教室、理科室、図書室
		特徴	個人情報や貴重品、薬品類の保管場所の防犯性を確保するもの
		検討課題	・開放エリアとの区画

検討結果

・現状の開放状況とコミュニティ・スクールの推進を踏まえ、1次または2次開放に対応した計画とします。
・3次開放については、オープンスクールなどの特定の利用者による施設利用となるため不要とします。

(3) 防犯性確保の考え方

・前項の地域開放範囲の検討を踏まえ、地域開放と防犯安全性を両立する施設構成や設備計画について検討します。

[△]学校領域の明確化

…敷地外周部は植栽帯やフェンスなどの見通しのよい囲障によって物理的に校内に侵入しにくい計画とします。

[○]電気錠・インターホンの設置

…門や地域玄関に電気錠・インターホンを設け、管理諸室で来校者の管理、開錠が可能な計画とします。

[○]地域玄関の設置

…建物の出入口について、学校動線と地域動線を分離可能な計画とします。

[○]管理諸室からの見通し確保

…職員室から正門、駐車場が見通せる計画とし、部外者の来校を把握できる計画とします。

[○]防犯カメラまたは見守りカメラの設置

…管理諸室からの見通しを補完する措置として防犯カメラまたは見守りカメラ等の防犯管理システムを構築します。

[○]明快な開放ゾーニング

…1次～2次の開放範囲を明確にゾーニングし開放範囲を柔軟に設定可能な構成とします。

[△]区画扉の設置と施錠方法

…開放エリアと非開放エリアの境界部に区画扉を設けます。施錠方法は手動を基本とし、必要に応じてスマートロック等の導入を検討します。

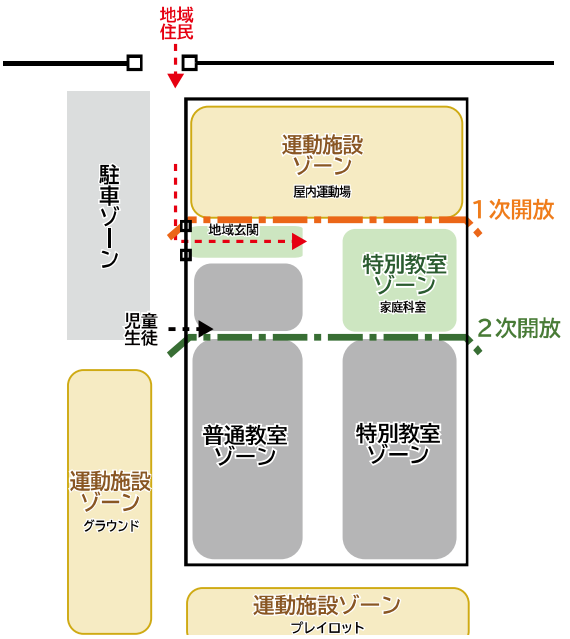
○：積極的な採用を図る
△：設計時の検討課題とする



［見通しのよい囲障］



［インターホン＋電気錠］



［地域開放ゾーニングイメージ］



［職員室からの見通し確保］



［安全カメラの設置］



［区画扉］

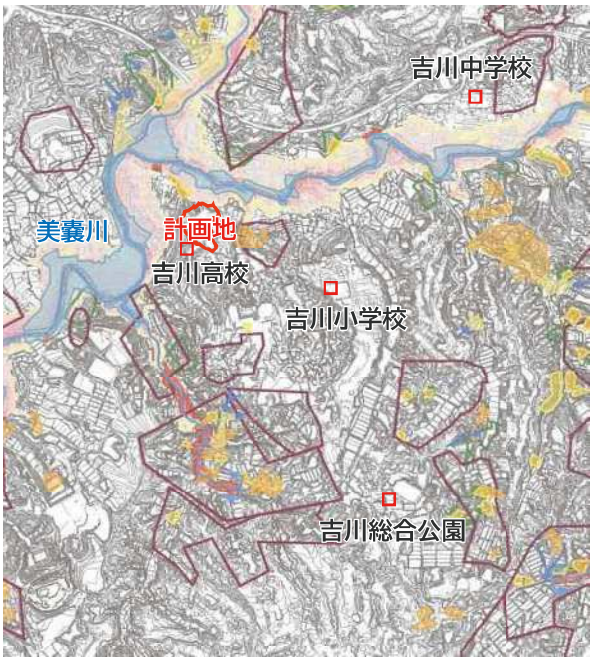


［スマートロック］

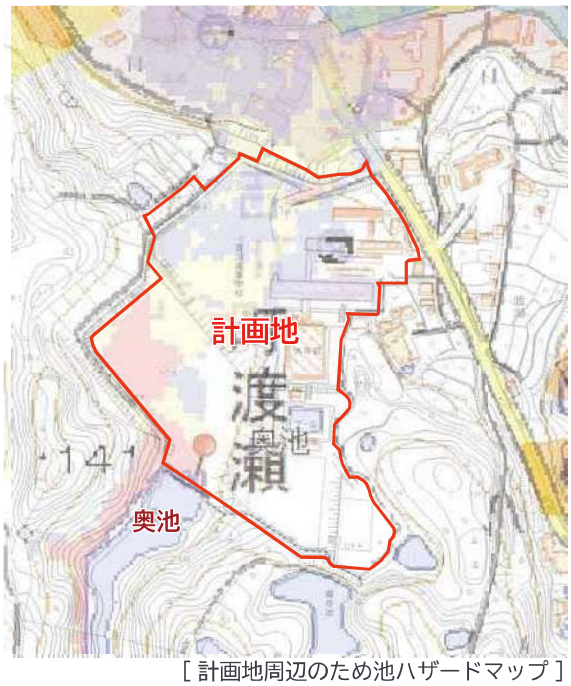
2. 防災機能

(1) 計画の方針

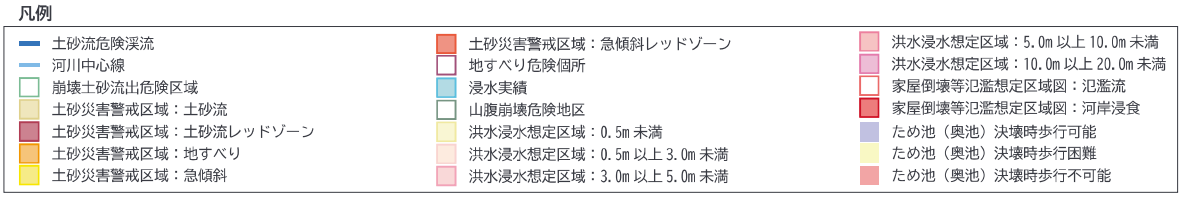
・三木市地域防災計画より、現在の吉川小学校･中学校は「指定緊急避難場所」及び「指定避難所」に該当します。そのため新校においてもこの位置付けを引き継ぐものとし、災害発生後に避難所として継続稼働できる施設づくりを行います。
・三木市土砂災害・洪水・ため池ハザードマップより、敷地の一部が奥池の浸水域となっており、学校の建物は配置しない方針とします。



［周辺の指定避難所位置］



［計画地周辺のため池ハザードマップ］



■周辺の指定避難所一覧

施設名		所在地	指定緊急避難場所		指定避難所	備考
			地震	風水害		
吉川小学校	校舎	みなぎ台1-31-3	○	○	○	
	グラウンド		○	○	○	
	体育館		○	○	○	
吉川中学校	校舎	大沢2	○	×	○	ドクターヘリポート
	グラウンド		○	×	○	
	体育館		○	×	○	
吉川高校	校舎	渡瀬300-12	○	○	○	臨時ヘリポート、ドクターヘリポート
	グラウンド		○	×	○	
	体育館		○	○	○	
吉川総合公園	研修館	西奥260	○	○	○	臨時ヘリポート、ドクターヘリポート
	グラウンド		○	○	○	
	ホール		○	○	○	

(2) 学校施設における避難所機能強化の考え方

・ 避難所となる学校施設の防災機能の検討に際して、災害発生時から学校機能再開時まで 4 つの期間に分類し、それぞれの段階で必要となる整備項目に配慮した計画を行います。

社会的状況		1. 救命避難期	2. 生命確保期	3. 生活確保期	4. 学校機能再開期
経過時間		災害直後～避難	災害直後から数日 (通常3日間)	災害直後から数週間	災害直後から数ヶ月
応急避難場所		• 地域住民の学校への避難	• 応急避難場所の開設 • 応急避難場所の管理運営	• 自治組織の立上がり • 自治組織の確立	• 応急避難場所機能と学校機能の同居 • 応急避難場所の解消
学校機能		子どもたち の安全確保	→	学校機能 再開の準備	学校機能 再開
必要な施設整備		• 明快な動線計画による避難経路の確保 • 救護センター機能をもつ保健室	• 物資を保管する備蓄倉庫 • 応急避難所となる屋内運動場 • 災害時にも活用できるインフラ設備	• 避難者への炊き出しに利用できる家庭科室 • プライバシーを確保する相談室	• 明快なゾーニング計画により、学校機能と応急避難場所機能の共存
必要な内容		• 防災設備 (設備機器の耐震化、避難誘導設備、初期消火設備) ※屋内消火栓は停電時、使用不可	• 明かり • 飲料水 • 非常備蓄 • 災害用トイレ • 通信機器用電源	• シャワー • 冷暖房 • 換気 • 調理炊き出し	• 避難所となる学校が併存するため、給水設備容量など、検討が必要
インフラ状況想定	電力	×	△(可搬式発電機、太陽光発電)	○(復旧)	○
	上水	×	△(緊急遮断弁付き受水槽)	△(給水車)	○
	下水	×	△(マンホールトイレ)	△(マンホールトイレ)	○
	通信	×	×	○(復旧)	○
	ガス(LPG)	○	○	○	○

[避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集 (文部科学省 R2. 3 月)]

・基本計画としては下記の「○・△」の項目で評価し、導入の要否については設計時に再検討することとします。

○：積極的な採用を図る
△：設計時の検討課題とする

※記載のコストは過去の実績を参考としており、
施設規模やコスト削減ついては設計時の再検討が必要です。

①救命避難期　－災害発生直後から、地域住民が避難場所に避難するまでの段階－

■安全な避難経路の確保と堅牢な建物づくり

[○]堅牢な構造計画

…耐震安全性Ⅱ類（建築基準法1.25倍）を踏まえた構造計画とします。

[△]大空間の天井の落下防止：①

…建築基準法の特定天井に加え、大空間の天井落下防止対策を行います。※1

[○]安全な避難動線確保：②

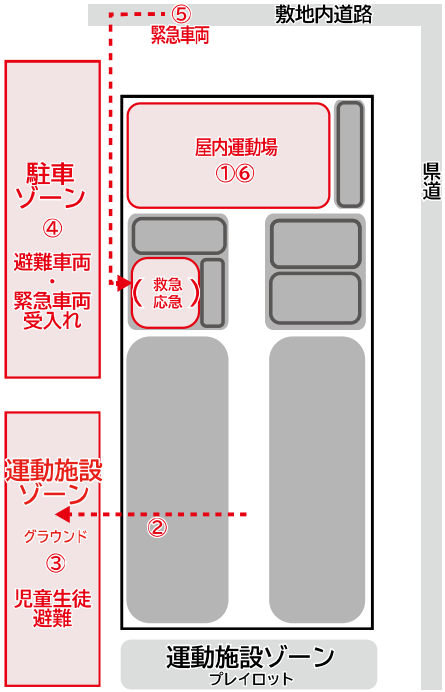
…建物の低層化や避難動線を複線化するなど、安全な避難動線を確保します。

[○]グラウンドへの迅速な避難：③

…グラウンドと普通教室を同レベルに配置することで、迅速な避難を可能とします。

[△]継続利用可能な設備計画

…伸縮継手の採用など地震動による配管の破断を防いだ設備計画とします。



[救命避難期のゾーニングイメージ]

■地域住民の迅速な避難に対応できる施設づくり

[○]駐車場への避難者受入れ：④

…自家用車の避難を考慮し、車が直接乗入れられる広い駐車場を計画します。

[○]緊急車両の直接乗り入れ：⑤

…避難場所(屋内運動場)や救護室(保健室)に緊急車両が近づける動線を確保します。

[○]指定避難所のバリアフリー：⑥

…指定避難所となる屋内運動場はバリアフリーを徹底します。



[①東日本大震災における天井落下]



[②安心安全な避難動線]



[⑤緊急車両の直接乗り入れ]



[⑥バリアフリー]

※1：文科省基準の特定天井
：集会用途に利用される高さ6m超「又は」200㎡超の天井

②生命確保期　－避難後に救援物資が届き始めるまで、または救助されるまでの段階－

■避難初期のインフラ確保

[○]避難所面積の確保
…居住空間の3.5㎡/人（スフィア基準）を参考に、アリーナを基本に、多目的交流スペースや学童保育施設などのスペース活用を想定し、避難所面積を確保します。

[○]防災備蓄倉庫：①
…外部からも使いやすい位置に備蓄倉庫を計画します。

[○]断水時の飲料水の確保
…現吉川小学校が避難所として利用できなかった場合を想定し、667人分の飲料水を3日分確保した緊急遮断弁付受水槽を計画します。
（667人×3L×3日分＝6.00t
学校用受水槽20t想定(350人)で確保可能）
参考：農林水産省　緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド(飲料用+調理用)

[○]マンホールトイレ：②
…下水道破損時などのトイレが使用できない時でも、避難者にトイレを提供します。
(100人で1～2基、下水道直結式7基想定・1000万円程度)
参考：マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン-2021年度版-

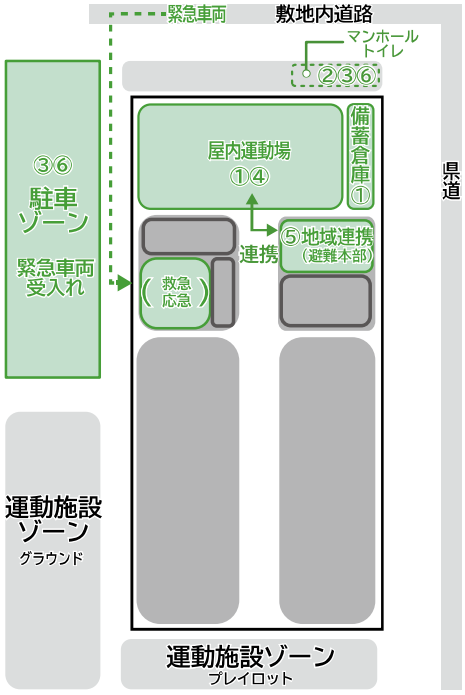
[△]防災井戸：③
…マンホールトイレの洗浄水として手押しポンプ式の井戸を設けます。（深度15m、500万程度）

[○]停電時の電源確保：④
…太陽光発電設備を活用し、晴天時日中の簡易電力（スマートフォン充電など）を確保します。また、アリーナなどの避難所エリアに停電可能な発電機接続口を設け、可搬式発電機の接続により、照明やスポット空調などの電力を確保します。

[○]インフラ二重化
…調理室コンロや給湯設備へのプロパンガスの併用により、電気とガスでインフラを使い分ける計画とします。

[○]地域・保護者連携推進室を避難本部として活用：⑤
…地域・保護者連携推進室を避難所本部として活用しやすい配置計画とします。

[○]防災用品の設置：⑥
…避難時に活用できるかまどベンチを設置します。



［生命確保期のゾーニングイメージ］


［①防災備蓄倉庫］


［②マンホールトイレ］


［③防災井戸］


［④発電機接続口］


［⑤避難本部イメージ］


［⑥かまどベンチ］

③生活確保期　－救援物資が届き始めてから、教育活動を再開するまでの段階－

■避難所運営への配慮

[○]健康的な避難所環境：①

…避難所となる屋内運動場へ空調を設置することで避難者の健康維持を図ります。

…避難時は、多目的交流スペース（武道場利用）に畳を敷き、要配慮者の避難生活に活用します。

[○]炊き出し利用：②

…家庭科室を外部から利用しやすい配置とし、炊き出しなどに利用やすい計画とします。

[○]シャワー設備：③

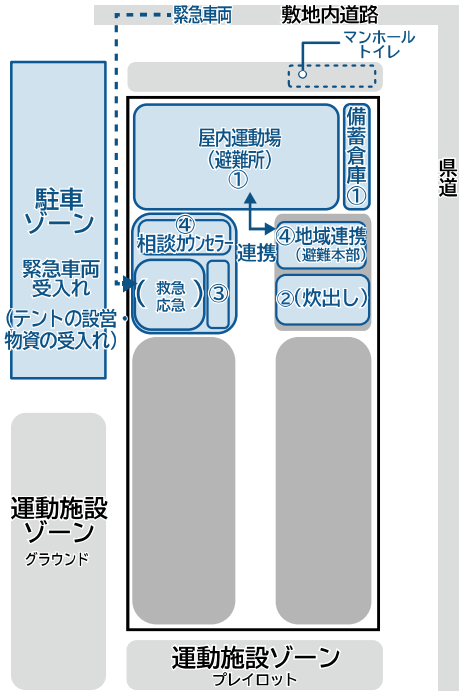
…長期の避難生活に備え、屋内運動場、保健室まわりにシャワー設備の設置を検討します。

[○]プライバシー確保：④

…相談室などをプライバシーが確保可能な諸室として活用します。

[○]屋外屋根付きスペース：⑤

…建物廻りに屋根付きスペースを設け、支援物資の一時保管や荷解き場所、またペットの避難場所などとして活用します。



[生活確保期のゾーニングイメージ]

④学校機能再開期　－教育活動を再開してから、避難所が閉鎖されるまでの段階－

■避難所機能と学校機能の両立

[○]避難所と授業空間のゾーニング

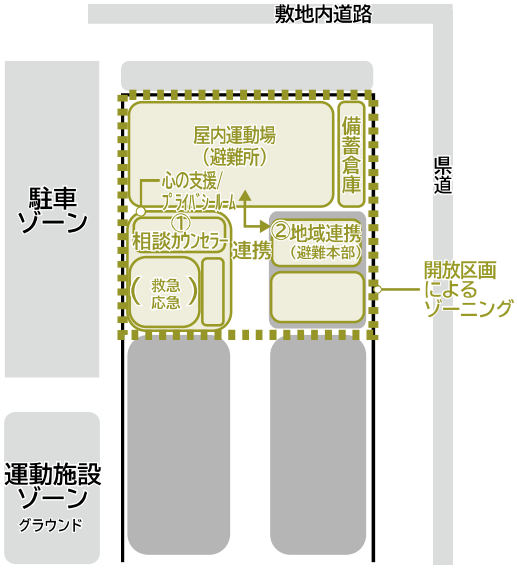
…開放エリアと非開放エリアを明確にゾーニングすることで、避難所機能と学校機能の両立を可能とします。

[○]ストレス対策やプライバシー確保：①

…災害による心の支援体制確保に配慮し、相談室などを活用します。

[○]ボランティアとの協同：②

…復興段階における情報共有や交流スペースとして地域・保護者連携推進室を活用します。



[学校機能再開期のゾーニングイメージ]

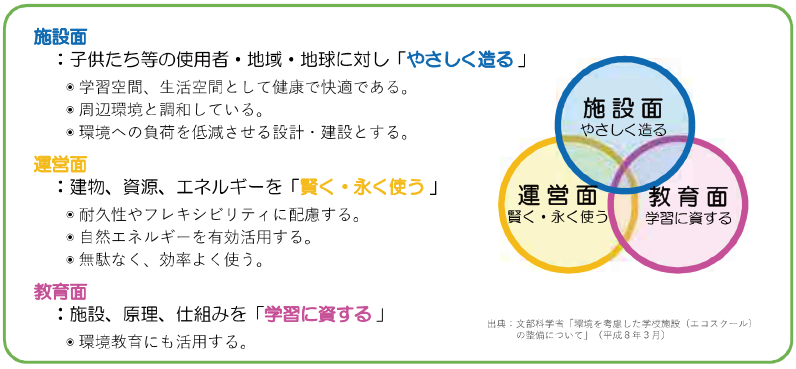
3. 環境配慮機能

(1) 計画の方針

・環境配慮計画の策定においては、基本構想コンセプト「自然環境に配慮した学校施設」の実現を目指し、環境負荷の低減及び児童や生徒の環境教育に役立てる方針とします。

(2) 環境配慮手法の採用の考え方

・環境配慮手法の採用にあたっては、文部科学省の指針を踏まえ、施設面・教育面・運営面の 3 つの視点から検討し、継続的な施設運用に活用します。



［出典：文部科学省　環境を考慮した学校施設づくり事例集（R2.3）］

・基本計画としては下記の「○･△」の項目で評価し、導入の要否については設計時に再検討することとします。

○：積極的な採用を図る ▲：設計時の検討課題とする

※記載のコストは過去の実績を参考としており、施設規模や減量については設計時の再検討が必要です。

施設面　－やさしく造る－

■健康で快適な学習空間・生活空間

［○］自然採光・自然通風

…自然採光・通風が得られるよう光庭や吹抜けを設けます。



［自然採光・自然通風（光庭）］

［○］庇

…庇を設置し日射遮蔽と雨天時の通風確保を図ります。

［△］ルーバー

…ルーバーにより日射遮蔽効果を高めます。



［庇やルーバー］

［○］トップライト・ハイサイドライト

…天井面からの均質な採光の確保を図ります。

［△］ライトシェルフ

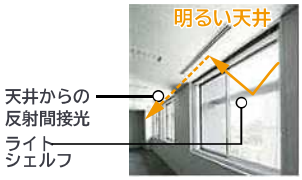
…建具に反射板を設置し、室内部まで自然光を取り込みます。
（W6000 窓 1 ヶ所あたり 150 万円程度）



［ハイサイドライト］

［○］高断熱化

…共有部（廊下やトイレ）も含んだ全館断熱施工を行い空調効率の良い快適な施設環境とします。

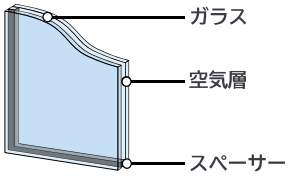


［ライトシェルフ］

［○］複層ガラス

…複層ガラスにより断熱性を高め空調負荷を低減します。

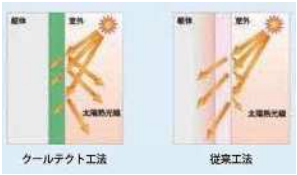
…空調負荷の高い南・西面の開口部は Low-E ガラスとします。（ フロート複層ガラスに比べ 1.3 倍程度 ）



［複層ガラス］

［△］遮熱塗装

…遮熱性能を有した外壁仕上げ材を採用し建物の温度上昇を防ぎます。（汎用品に比べ +6,000 円 / ㎡程度）



［遮熱塗装］

■周辺環境との調和

［○］敷地内緑化（まちの区域：10%、丘陵の区域：30%）

…敷地内の既存緑地は保全を行うとともに、空地への積極的な緑化を図ります。


［擁壁緑化］

■環境負荷の低減・資源の有効活用

［○］現場発生土の抑制

…ピット掘削土の外構整備路盤への転用等により発生土の抑制に配慮します。

［○］エコマテリアル（再生材料）

…再生砕石や高炉セメント等を採用し、建設副産物の有効活用を図ります。


［内装木質化］

［○］木造化・木質化

…木造化・内装木質化により、木の温もりのある教育環境づくりを行います。

教育面　－学習に資する－

■環境教育への活用

［○］エコモニター・見える化

…太陽光発電や消費電力の表示モニターを設け、省エネ意識の喚起に役立てます。（消費電力表示システムは 100 万円程度）


［エコモニターの設置］

…採用した環境配慮設計についての紹介パネルを設け運用に活かす工夫を行います。

［△］エネルギーについて学ぶ仕掛け

…導入した再生可能エネルギー活用手法を見て・触って感じる事のできる仕組みを取り入れ、日常的にエネルギーへの関心・意識を高めます。


［冷風を感じる吹出口］

［△］地域の材料の採用

…県産木材を利用し、地域森林資源の利用促進を図ります。


［地域材の採用］

運営面　－賢く・永く使う－

■自然エネルギーの有効活用


［太陽光発電］

［○］太陽光発電

…太陽光パネルを設置し共有部の照明等の使用電力の一部を賄います。

…10kW 想定で年間電気料金 10 万円程度の削減効果があります。
ただし 10 年程度でパワコンの更新費用が発生します。（150 万円程度）


［バランス式逆流防止窓］

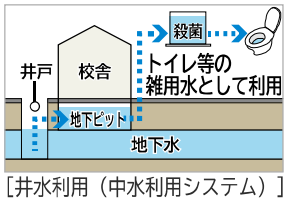
［△］バランス式逆流防止窓・給気スリットサッシ（ナイトパージ）

…無人でも給排気可能な窓を設け夜間等に施設内の換気を行います。
（バランス式逆流防止窓＋センサー 1 ヶ所で 1,800 万円程度）

［△］中水利用

…井戸から地下水をくみあげ、貯留槽に貯め、殺菌の上、便所洗浄水及び緑地散水に活用します。

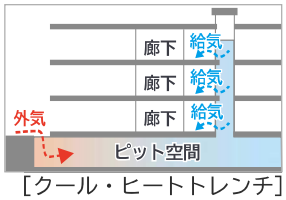
…井戸工事や、圧送ポンプユニット、配管などの設備機器が必要となります。（イニシャルで 5,000 万程度）加えて、更新費用として、薬液補充による約 30 万円 / 年間が発生します。また、机上では年間 150 万円程度の水道料金削減効果があります。



［井水利用（中水利用システム）］

［△］地熱利用（クール・ヒートトレンチ）

…年間を通じて安定したピット空間の空気を、廊下などの共有部に導入し、快適性の向上につなげます。（送風機 + ダクトの設置で 300 万円程度）



［クール・ヒートトレンチ］

■エネルギーの効率化

［○］LED 照明

…消費電力を抑え長寿命な LED 照明を採用します。従来 HF 蛍光灯に比べ電気料金 700 円 / ㎡程度の削減効果があるといわれます。

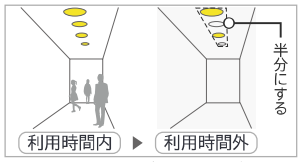
［○］センサ連動照明

…消し忘れを防止する人感照明や自然光に合わせ調光する昼光センサ照明の採用を検討し電灯消費電力の低減を図ります。


［人感照明］

［○］照明のゾーニング制御

…時間帯に応じて照度条件を緩和して、間引き点灯又は調光による減光により照明の消費電力を低減します。（簡易的な手法としては廊下照明の回路を分け手動による間引き点灯も可能）

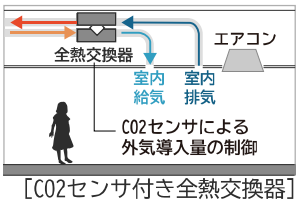


［照明のゾーニング制御］

［○］個別空調方式・全熱交換器

…必要な時だけ使用できる自由度の高い部屋毎の空調方式を採用します。

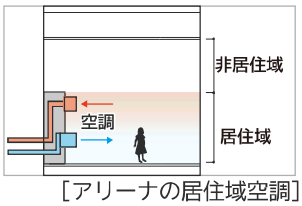
…換気は全熱交換器とし、廃熱を回収し、空調効率を向上します。



［CO2センサ付き全熱交換器］

［△］CO2 濃度による外気量制御

… CO2 濃度センサー付の全熱交換器によって、適正な外気導入量に制御することにより、冷暖房時の外気負荷を削減します。



［アリーナの居住域空調］

［○］大空間の居住域空調

…天井の高いアリーナの空調は、居住域に絞って空調する方式の居住域空調を採用し快適性と省エネを両立する方式とします。

［○］高効率設備機器の採用

…キュービクルや空調ヒートポンプにトップランナー機器を採用しエネルギー損失を削減します。


［自動水栓］

［○］節水型器具の採用

…手洗いへの自動水栓や節水型衛生機器により使用水量を削減します。

■耐久性やフレキシビリティの確保

［△］省メンテナンス材（内装材）の採用（例：アリーナフロアシート）

…2.5 万円 / ㎡程度（鋼製床別途）

…フローリングに比べ 10 年に一度のサンダ掛けコストを削減でき、30 年で約 9 千円 ~ / ㎡程度の削減となります。



［省メンテナンス材（内装材）］

［△］省メンテナンス材（外装材）の採用（例：溶融亜鉛メッキ処理鋼材）

…イニシャルコスト 4 千円 / ㎡（塗装費用）

…塗装仕上げに比べ 10 年に一度の塗り替えコストを削減でき、30 年で約 8 千円 / ㎡程度の削減となります。



［省メンテナンス材（外装材）］

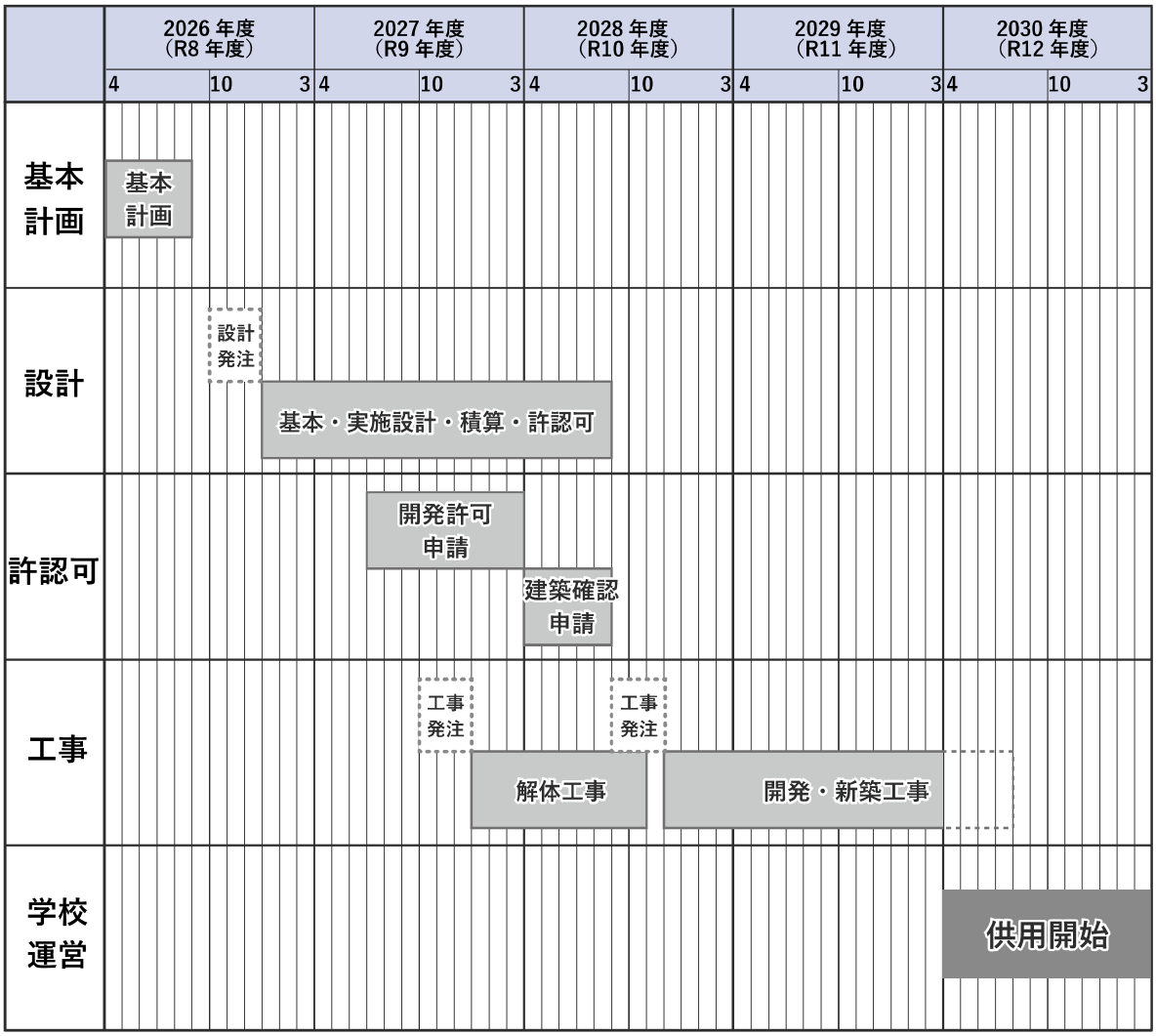
Ⅵ 整備費概算・事業スケジュール

1. 整備費概算

約63.0億円(税込)…既存施設解体工事、新築工事含む

2. 事業スケジュール

事業スケジュールについて以下に記載します。



※点線部分は、今後の設計・工事進捗等により変更となる可能性があります。

報 告 事 項

三木市教育委員会顕彰規則に基づく被顕彰者の決定について（報告）

三木市教育委員会顕彰規則（昭和６３年三教委規則第７号）第４条の規定に基づき、下記のとおり三木市教育委員会被顕彰者を決定したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則（昭和５９年三教委規則第１号）第２条第２項第４号の規定により報告する。

記

１　規則根拠　　第２条第２号（文化、芸術の振興と発展に貢献し、その功績が顕著であるもの）

２　被顕彰者　　別紙のとおり（７人）

３　表 彰 式

(1) 三木市文化連盟推薦者

ア　日　時　　令和８年１１月８日（日）　午後０時４５分～

イ　会　場　　三木市文化会館　大ホール（芸能フェスティバル）

(2) 三木市合唱連盟推薦者

ア　日　時　　令和８年１０月２５日（日）　調整中

イ　会　場　　三木市文化会館　大ホール（三木市民合唱祭）

(3) 三木市美術協会推薦者

ア　日　時　　令和８年１０月中旬～１１月上旬　調整中

イ　会　場　　堀光美術館（三木市ゆかりの作家展）

(4) 三木市盆栽協会推薦者

ア　日　時　　令和８年１１月上旬 調整中

イ　会　場　　三木市文化会館　大ホール（盆栽展）

(5) 三木市菊花協会推薦者

ア　日　時　　令和８年１１月１３日（金）　午後５時～

イ　会　場　　三木市立教育センター　大研修室（菊花展覧会表彰式）

令和８年度 全国学力・学習状況調査 三木市結果概要

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。
この調査は、子どもたちの学力や学習状況等を把握・分析し、今後の教育施策や授業改善に生かすことを目的として実施されています。実施教科や質問項目が限られていることから、調査結果は子どもたちの学力や学習状況の全てを示すものではありませんが、三木市の教育の成果や課題を考えるための重要な資料の一つです。
三木市教育委員会では、三木市がめざす教育が子どもたちの姿や学びにどのように表れているのかという視点から結果を捉え、今後の授業改善や学校づくりに生かしてまいります。
また、学校と家庭が子どもたちの育ちや学びについて共に考えるきっかけとし、三木市がめざす「主体性・協働性・創造力」を育む教育をいっそう推進してまいります。

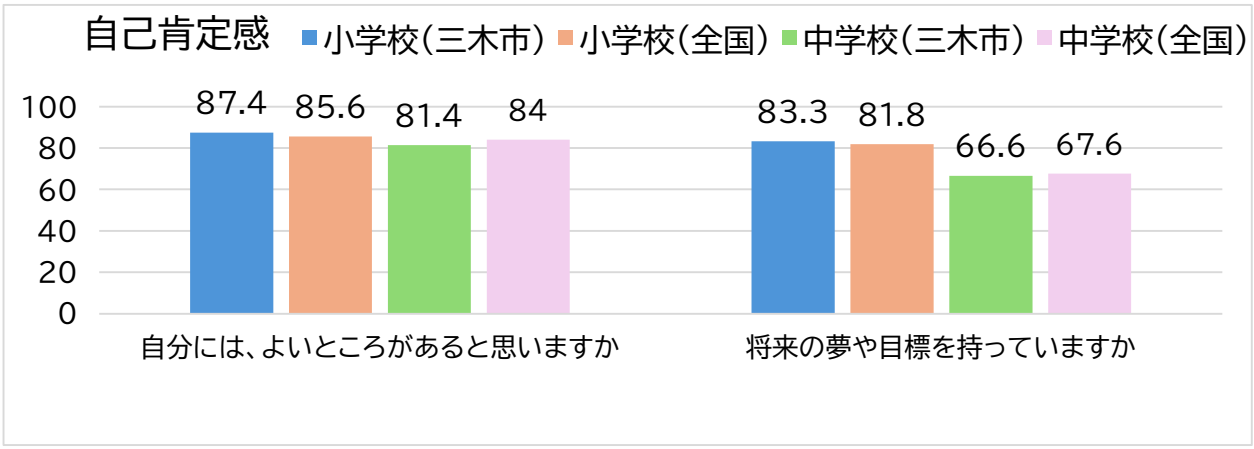
令和８年９月
三木市教育委員会

全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、子どもたちの意識や学校生活、生活習慣などについて尋ねています。
各グラフは、質問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合を示しています。

※調査結果の表記について
全国と比較して 5 ポイント以上高い場合を「上回る」、差が 5 ポイント未満の場合を「同程度」、5 ポイント以上低い場合を「下回る」と表記しています。
また、過年度の傾向については、各年度で調査対象となる児童生徒が異なることに留意しつつ、三木市全体として継続してみられる傾向を捉えるための参考として分析しています。

三木市がめざす教育と子どもたちの姿（質問紙調査の分析）
三木市では、予測が困難な未来を自分らしく生き抜いていくために、社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力を育むことが大切であると考えています。
そこで、三木市の学校教育では、「主体性」「協働性」「創造力」の育成に取り組んでいます。
本資料では、質問紙調査の項目のうち、特に、「主体性」「協働性」と、その基盤となる「安心して学ぶことのできる学校環境」「学びを支える生活基盤」に関わる項目を中心に、成果と課題を整理しました。

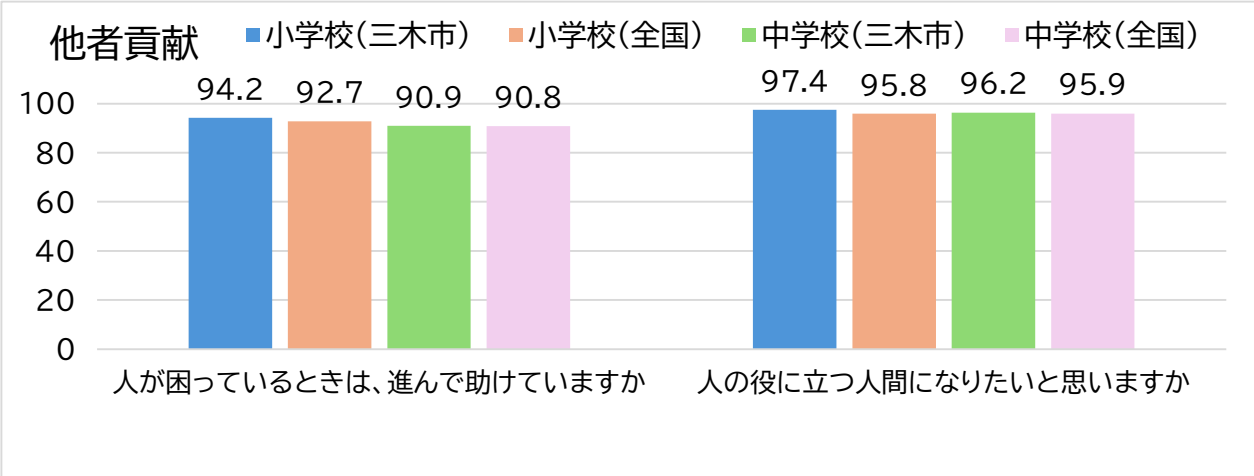
主体性
「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのは楽しい」などの項目から、自分自身を肯定的に捉え、目的や意欲を持って生活・学習しようとする姿を捉えます。



「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童生徒は、小・中学校ともに80%以上でした。一方、「将来の夢や目標を持っている」については、中学校の肯定的回答の割合が小学校より低く、過年度にも同様の傾向がみられます。こうした結果を踏まえ、日々の授業や学校行事等において、一人一人が自分のよさや成長に気付き、目標を持って挑戦できる機会を充実させます。また、学びや活動を振り返り、自らの成長や次の課題を捉えることができるようにすることで、主体性の育成につなげます。

協働性

「困っている人を進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「人と違う意見を言っても否定されない」などの項目から、他者を尊重し、互いの違いを認めながら共に学び、生活しようとする姿を捉えます。

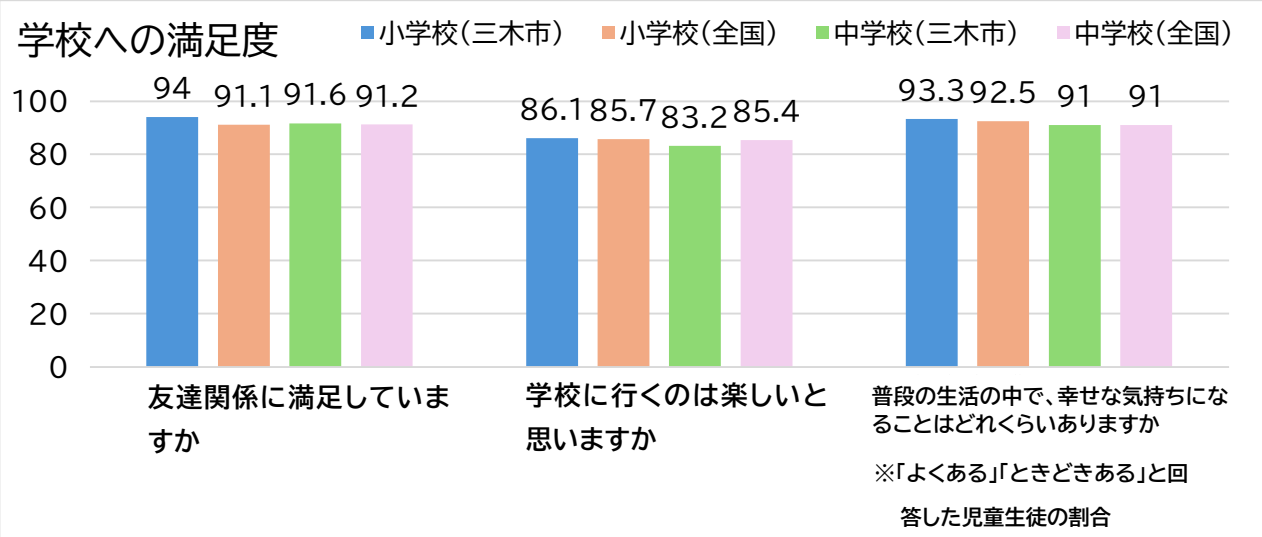


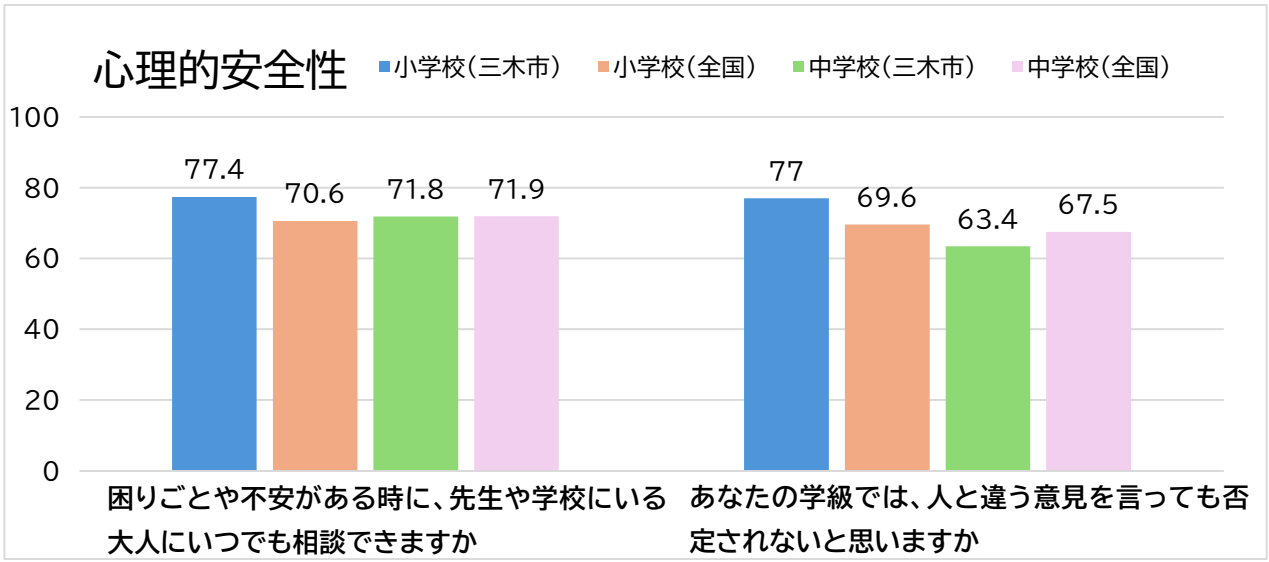
「困っている人を進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」といった他者貢献に関する意識は、小・中学校ともに90%を上回る高い水準でした。

これらの結果から、他者を大切にし、誰かの役に立ちたいと考えている児童生徒が多いことがうかがえます。こうした意識を、仲間と考えを伝え合い、互いのよさや違いを生かして課題を解決する「協働的な学び」につなげることが大切です。自分の考えや学びが仲間の学びにつながることを実感できるような学習活動の充実を図ります。

安心して学ぶことのできる学校

「困ったときに先生や学校の大人に相談できる」「友達関係に満足している」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」などは、三木市の進める「全ての子どもが今を幸せに感じる学校づくり」を考える上で、重要な指標です。



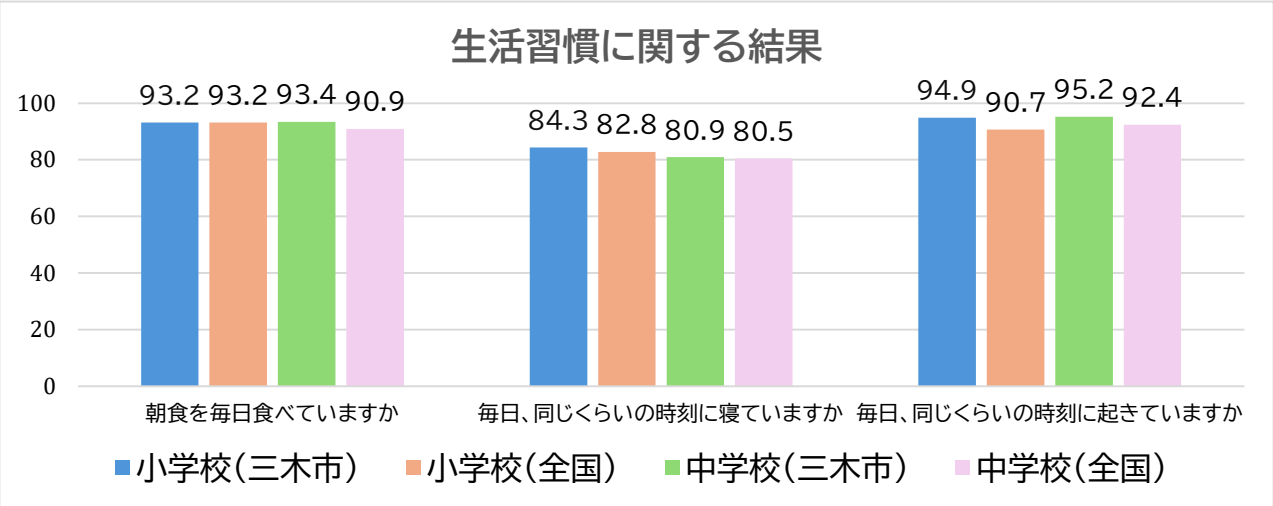


「困ったときに先生や学校の大人に相談できる」「友達関係に満足している」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」などの項目では、多くの児童生徒が肯定的に回答しています。これらの結果から、学校生活や人とのつながりを肯定的に捉えている児童生徒が多いことがうかがえます。

一方で、「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」について、中学校の肯定的回答は 63.4%でした。自分の考えを安心して表現し、対話を通して学びを深めるためには、互いの考えや違いを認め合える学級・授業づくりが重要です。全ての児童生徒が安心して自分の考えを伝え、他者の考えに触れながら学ぶことのできる環境づくりをいっそう進めます。

生活習慣

朝食を食べることや睡眠のリズムなどは、子どもの学びや成長を支える重要な生活基盤です。ここでは、三木市の子どもたちの基本的な生活基盤について捉えます。



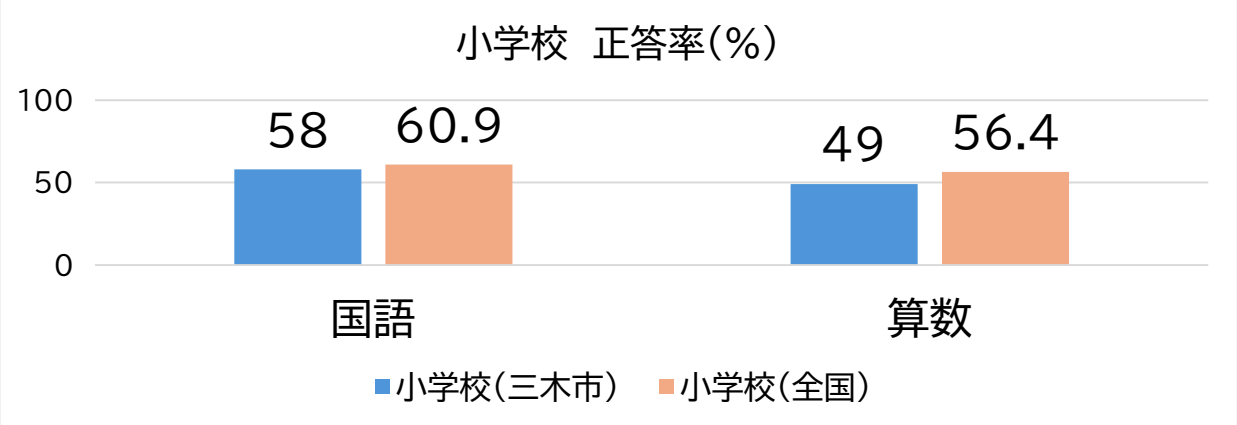
朝食の摂取や就寝・起床時刻など、基本的な生活習慣に関する項目は、全国と同程度の状況でした。生活習慣は、子どもたちの心身の健康や学びを支える大切な基盤です。今後も学校、家庭、地域がそれぞれの役割を生かしながら連携し、子どもたちがよりよい生活習慣を身に付けられるよう支えていくことが大切です。

教科に関する調査の結果について

令和８年度は、小学校で国語・算数、中学校で国語・数学・英語の調査が実施されました。各教科では、基礎的な知識・技能だけでなく、それらを活用して考え、判断し、表現する力が一体的に問われています。

具体的には、漢字や計算などの基礎・基本、文章や図・グラフなどから必要な情報を読み取る力、複数の情報を関連付けて考える力、論理的に問題を解決する力、根拠を明確にして説明したり自分の考えを表現したりする力などが問われました。

中学校英語は、「聞く・読む・書く・話す」の４技能を対象に、コンピュータを使用したオンライン方式で実施されました。音声や動画を用いた出題に加え、マイクを使ったスピーキングやキーボードによる文字入力でする問題も出題されました。



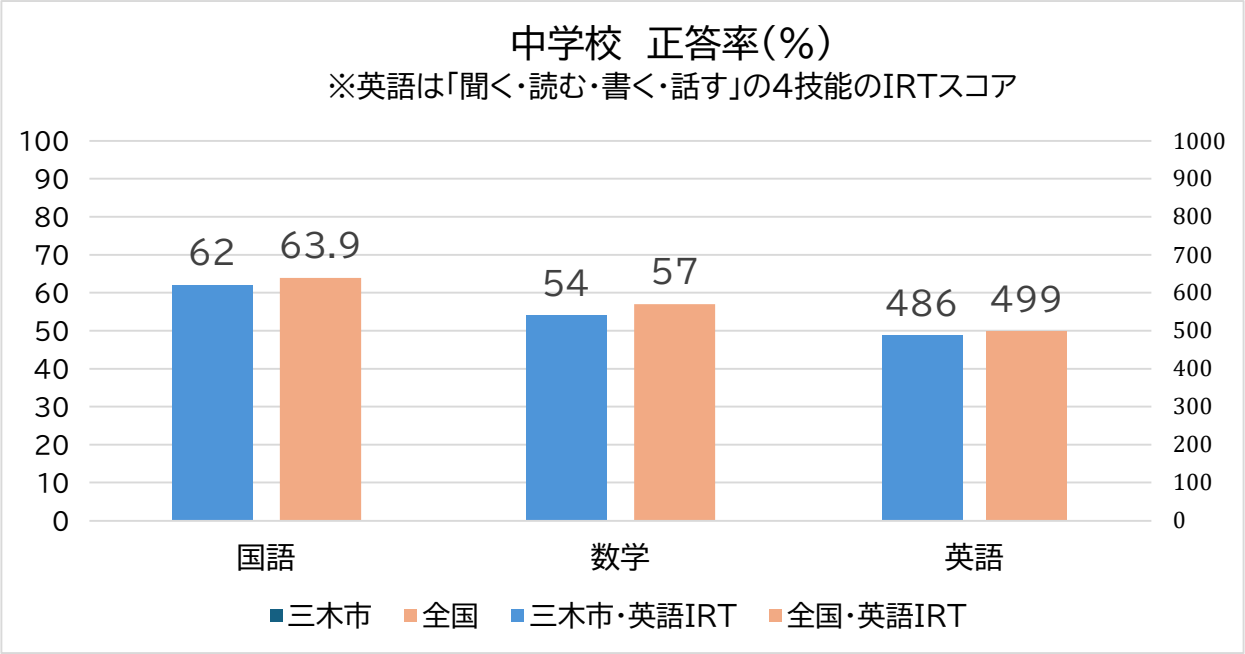
国語科は、全国と同程度、算数科は全国を下回る結果でした。個々の問題の正答状況を見ると、基礎的な知識・技能や、身の回りの表・グラフなどから情報を読み取る問題には一定の理解が見られました。一方、文章全体を捉えて複数の情報を関連付けて考えることや、数や図形の仕組みを捉え、根拠を明確にして説明することに課題がみられました。

小学校 国語

イラストと文章を関連付けて分かりやすい説明文にする問題や、自分の経験と結び付けて文章を書く問題で一定の理解ができています。一方、話し合いの文脈を踏まえ、目的に応じて情報を整理・判断する問題に課題がみられました。文章の全体像や流れを念頭に置き、情報を関連付けて考える力の育成を図ります。

小学校 算数

身の回りのグラフや図表から情報を正しく読み取る力は定着しています。一方、立体の体積や小数の計算、数直線上の目盛りについて考える問題など、「数の仕組み」を頭の中でイメージする力に課題がみられました。また、複数の表から数値を取り出して説明する力にも課題があります。複数の要素を関連付けて論理的に説明する活動を充実させます。



IRT（項目反応理論）スコアとは、問題の難易度などを考慮して算出する学力の指標です。結果は「500」を基準とした得点で示され、出題される問題が違っても同じ尺度で比べられるようになります。詳細は、文部科学省ＨＰを御覧ください。
https://www.mext.go.jp/content/20250710-mxt_chousa02-000043584.pdf

国語科、数学科、英語科はいずれも全国と同程度の結果でした。個々の問題の正答状況を見ると、基礎的な知識・技能や、表やグラフなどから必要な情報を読み取る問題には一定の理解がみられました。一方、複数の情報を比較・関連付けて読み解くことや、根拠を明確にし、自分の考えを整理して言葉や式などで説明・表現することには、各教科に共通する課題がみられました。

中学校 国語

文脈に即して正しく漢字を書くことや、文章の中心的な部分と付加的な部分を判断することはできています。課題としては、図や表など複数の情報を見比べて正確に読み解く力が挙げられます。与えられた条件に合わせて情報を整理し、自分の考えをまとめる力の育成に向け、読解指導の充実を図ります。

中学校 数学

表やグラフ（箱ひげ図など）から必要な情報を正しく読み取る基礎力は身に付いています。しかし、見つけた規則性を文字式や文章で表したり、グラフが表している意味を自分の言葉で説明したりする問題に課題がみられました。「なぜその答えになるのか」を数学的な言葉や式を使って説明し合う協働的な学習を進めます。

中学校 英語

日常的な話題の短い文章を読んだり書いたりする基礎的な英語力は身に付いています。一方、過去の出来事を交えて「まとまりのある長い文章」を書くことや、社会的な話題の英語音声から「大まかな要点」を聞き取ることには課題がみられました。自分の考えを整理して表現する活動や、多様な話題の全体像を捉える学習を充実させます。

今後の取組について

令和8年度の調査結果からは、他者を大切にし、学校生活を肯定的に捉えている子どもたちの姿がみられます。

一方で、「自分の考えを安心して表現すること」や、「複数の情報を関連付け、根拠を持って考えを表現すること」には課題がみられます。

これからの社会では、身に付けた知識や技能を活用しながら、自ら考え、多様な考えを持つ人々と対話し、協働しながら、よりよい考えをつくり出していく力が求められます。三木市がめざす「主体性・協働性・創造力」を育むためにも、子どもたちが「安心して自分を表現できる環境」の中で、「自ら深く考え、根拠を持って他者に伝える力」を伸ばしていくことが大切です。

今後は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、子どもたちが自ら考え、仲間との対話を通して考えを広げたり、深めたりしながら、自分の言葉で表現する学びをいっそう充実させていきます。

そのため、正解を求めることだけではなく、「なぜそう考えたのか」「どのように考えたのか」という思考の過程を大切にし、互いの考えを伝え合い、比較したり関連付けたりしながら考えを深める学習を進めます。

また、文章や図、表、グラフなどの複数の情報を関連付け、必要な情報を選び、根拠を明確にして考えを表現する学習の充実を図ります。

こうした学びを通して、子どもたちが安心して自己表現し、自ら学び、他者と協働しながら新たな価値を創り出していくことができるよう、「主体性・協働性・創造力」を育む教育をいっそう推進してまいります。

今後とも、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を生かしながら連携し、子どもたちの育ちと学びを共に支えていただきますようお願い申し上げます。

教 育 総 務 部　　教 育 施 設 課 報 告 事 項

1　学校施設整備工事等の進捗状況（8 月 31 日現在）について

実施事項	主 な 内 容	備考
① 緑が丘東小学校 大規模改修工事 （２期目）	ア　工　　期　R8.6.29 から R8.12.28 まで イ　契約相手　株式会社横山建設工業 ウ　契約金額　140,778 千円 エ　進 捗 率　30％ オ　今後の予定　内部工事	
② 自由が丘小学校 外壁等改修工事 （１期目）	ア　工　　期　R8.7.17 から R9.1.29 まで イ　契約相手　株式会社神和商事 ウ　契約金額　82,115 千円 エ　進 捗 率　10％ オ　今後の予定　外部工事	
③ 三木中学校 北校舎外壁等改修 工事	ア　工　　期　R8.5.29 から R8.9.30 まで イ　契約相手　株式会社ミック ウ　契約金額　14,960 千円 エ　進 捗 率　90％ オ　今後の予定　防水工事	
④ 三木中学校 屋内運動場空調設 備新設工事	ア　工　　期　R8.5.7 から R8.9.30 まで イ　契約相手　大昭建設株式会社 ウ　契約金額　43,780 千円 エ　進 捗 率　30％ オ　今後の予定　内部・外部工事	
⑤ 緑が丘中学校 外壁等改修工事	ア　工　　期　R8.6.5 から R8.9.30 まで イ　契約相手　棚田建材株式会社 ウ　契約金額　109,835 千円 エ　進 捗 率　40％ オ　今後の予定　外部工事	
⑥ 校舎及び体育館 の照明ＬＥＤ化	ア　工　　期　4 月 イ　契約相手　アイリス電工株式会社 ウ　契約金額　28,001 千円 エ　進 捗 率　100％ オ　対 象 校　平田小学校、口吉川小学校、別所中学校	
	ア　工　　期　7～8 月 イ　契約相手　アイリス電工株式会社 ウ　契約金額　61,395 千円 エ　進 捗 率　100％ オ　対 象 校　緑が丘小学校、広野小学校、三木中学校、三木東中学校、三木特別支援学校	
	ア　工　　期　7～8 月 イ　契約相手　アイリス電工株式会社 ウ　契約金額　89,532 千円	

	エ　進捗率　95％ オ　対象校　三樹小学校、三木小学校、別所小学校、志染小学校、豊地小学校、自由が丘小学校、自由が丘東小学校、緑が丘中学校、自由が丘中学校	

教育総務部　生涯学習課報告事項

1　実施した事業

(1)　公民館

実施事項	主な内容	備考
① 敬老会	・志染町公民館　9月6日（日）　参加者　__人 ・自由が丘公民館　9月13日（日）　参加者　__人	
② スマホ教室（県主催）	・緑が丘町公民館　6月24日（水）　参加者　12人 ・中央公民館　7月7日（火）　参加者　17人 ・緑が丘町公民館　9月9日（水）　参加者　__人	前期終了
③ スマホ教室（スマサポ号）	・別所町公民館　7月14日（火）　参加者　8人 ・吉川町公民館　7月28日（火）　参加者　3人 ・緑が丘町公民館　8月25日（火）　参加者　7人 ・中央公民館　9月8日（火）　参加者　__人	全期終了

(2)　公民館以外

実施事項	主な内容	備考
令和8年度三木市二十歳の祝典第1回実行委員会	ア　日　時　8月24日（月）午後7時～7時40分 イ　場　所　中央公民館3階講座室 ウ　内　容　役員選出、今後の協議事項について ※本年度の開催日は1月10日（日） エ　出席者　8人	

2　今後の予定

(1)　公民館

実施事項	主な内容	備考
① 敬老会	・口吉川町公民館　9月21日（月・祝）	
② 令和8年度1回公民館運営審議会	ア　日　時　9月29日（火）午後1時30分～3時 イ　場　所　中央公民館　4階大会議室 ウ　内　容　令和8年度各公民館の活動目標及び事業進捗状況について	

(2)　公民館以外

実施事項	主な内容	備考
中央公民館等複合施設整備にかかる住民等説明会	ア　日　時　9月24日（木）午後7時～8時30分 9月27日（日）午後2時～3時30分 イ　場　所　中央公民館　4階大会議室 ウ　内　容　・中央公民館等複合施設の平面図について ・その他、工事に関する内容について	

教　育　総　務　部　　図　書　館　報　告　事　項

1　実施した事業

実施事項	主　な　内　容	備考
①夏休み子どもイベント「ガチャぼん」	ア　期　間　7月18日（土）～8月31日（月） イ　場　所　吉川図書館 ウ　内　容　各図書館での配布や市ホームページからダウンロードできる「読書手帳」の記録が20冊いっぱいになったら、図書館職員手作りのガチャガチャに1回チャレンジできる。	
②ＤＶＤ上映会	ア　日　時　9月12日（土） 午後2時～4時 イ　場　所　吉川図書館　多目的室 ウ　内　容　「ある閉ざされた雪の山荘で」上映 エ　参加者　　人	
③手話でみんなのおはなし会	ア　日　時　9月13日（日）午前11時～11時30分 イ　場　所　中央図書館　2階おはなしコーナー ウ　内　容　手話付き絵本の読み聞かせ エ　参加者　　人	協力：手話サークルみき

2　実施中の事業

実施事項	主　な　内　容	備考
「図書修理の困ったをみんなで考える会」～図書修理ステップアップ講座～	ア　日　時　9月7日（月）～令和9年3月1日（月） 午後1時30分～4時30分（全8回） イ　場　所　中央図書館　1階視聴覚室及び市民交流室 ウ　講　師　平野照子氏 エ　定　員　10人（市内在住者） オ　内　容　①本の構造を知る ②絵本の修理 ③表紙の破損の修理 ④無線綴じ本の修理 ⑤本体と表紙の結合 ⑥糸綴じによる修理	

	⑦ハードカバーの修理 ⑧参加者希望内容	

3　今後の予定事業

実施事項	主　な　内　容	備考
①すくすく親子クッキング＆おはなし会	ア　日　時　9月28日（月） 午前10時30分～正午 イ　場　所　吉川健康福祉センター　栄養指導室 ウ　内　容　秋の絵本の読み聞かせ、ホットケーキミックスでちぎりパン作り エ　定　員　6組 オ　主　催　おはなしサークルすくすく	
②絵本と音楽のライブツアー2026	ア　日　時　①10月3日（土） ②10月12日（月・祝） ③10月31日（土） 時間はいずれも午後2時～3時 イ　場　所　①青山図書館　中会議室 ②中央図書館　視聴覚室 ③吉川図書館　多目的室 ウ　内　容　絵本の読み聞かせ及びピアノ・ギターの生演奏のコラボレーション エ　出　演　藤田紀子氏（ピアノ）、小巻健氏（ギター）、読み聞かせボランティア、図書館職員 オ　定　員　各館先着50人	

4　定例で実施する事業

実施事項	主　な　内　容	備考
①ブックスタート事業	ア　期　日　・9月24日（木）乳児健診時 ・10月29日（木）乳児検診時 イ　場　所　総合保健福祉センター ウ　内　容　あかちゃん絵本の読み聞かせ並びに絵本（2冊）及びバッグのプレゼント	協力：ブックスタートサポートボランティア「らっこ」
②だっこで絵本の会	ア　日　時　毎月第4月曜日 ・たまご組（1歳未満の子及び保護者） 午前10時30分～11時	主催：みきだっこで絵本の会

	・ひよこ組（2歳未満の子及び保護者） 午前11時20分～11時50分 イ　場　所　中央図書館　おはなしコーナー	
③ストーリーテリング	ア　日　時　毎月第2土曜日 午後3時～3時30分 イ　場　所　中央図書館　おはなしコーナー	主催：ストーリーテリングみき
④手話で本を楽しむ	ア　日　時　毎月第3木曜日 午後1時30分～3時30分 イ　場　所　中央図書館　対面朗読室 ウ　内　容　活字での読書が困難なかたに、手話で図書館資料を対面朗読する。	協力：障害福祉課
⑤おはなし会	ア　中央図書館 ・日　時　毎週土曜日　午前10時30分～11時 イ　青山図書館 ・日　時　毎週土曜日　午前10時30分～11時 ウ　吉川図書館 ・日　時　毎月第4月曜日　午前11時～11時30分	主催：みきおはなし会＊絵本の森、MEN’S絵本プロジェクト“いぶし銀”
⑥えいごのおはなしかい	ア　中央図書館 ・日　時　毎月第4土曜日　午後2時30分～3時 イ　青山図書館 ・日　時　毎月第4土曜日　午後1時30分～2時	主催：えいごのおはなしかい
⑦図書修理ボランティア	ア　中央図書館 ・日　時　毎週火・金曜日　午前10時～午後4時 イ　青山図書館 ・日　時　毎週火曜日　午前10時～午後1時 ウ　吉川図書館 ・日　時　毎月第3火曜日　午後1時～4時	
⑧ＦＭみっきぃでの図書館ＰＲ	ア　図書館だより ・日　時　毎月第1土曜日　午前11時15分頃 イ　Ｌｅｔ’ｓ　ｇｏ図書館 ・日　時　毎月第1水曜日　午後4時30分頃 ※番組内容により、放送日時が変更となる場合あり	

教育総務部　文化・スポーツ課報告事項

1　実施した事業

実施事項	主な内容	備考
① 公募展	ア　会　期　8月5日（水）～23日（日） イ　場　所　堀光美術館 ウ　内　容　第6回アート・ティーン公募展 エ　表彰式　8月23日(日）午後2時～ オ　参加者　1,451人	主催：堀光美術館
② ワークショップ	ア　会　期　8月11日(火・祝) イ　場　所　堀光美術館 ウ　内　容　手ぶらで書(しょ)、アルコールインクアートで作るキーホルダー、紙版画で遊ぼう、消しゴムはんこ製作 エ　参加者　154人（延べ人数）	主催：堀光美術館／文化・スポーツ課
③ バレーボール強化練習会	ア　日　時　8月22日（土）午前9時30分～午後4時 イ　場　所　三木山総合公園体育館 ウ　講師等　デンソーテンレッドフェニックス(9人制バレーボールチーム) エ　参加者　90人	主催：(公財)三木市スポーツ振興基金
④ 企画展特別講演会	ア　日　時　9月6日(日)　午後1時30分～3時 イ　場　所　教育センター大研修室 ウ　内　容　秀吉・秀長と戦ったひょうごの城 エ　講　師　本岡　勇一氏（城郭研究家） オ　参加者　　人	主催：みき歴史資料館

2　実施中の事業

実施事項	主な内容	備考
① 企画展	ア　会　期　7月25日（土）～9月27日（日） イ　場　所　みき歴史資料館 ウ　内　容　秀吉・秀長の播磨攻めと城郭	主催：みき歴史資料館
② 特別企画展	ア　会　期　9月5日（土）～10月4日（日） イ　場　所　堀光美術館 ウ　内　容　つくるたのしさ展-アートは自由で楽しい見えない不思議パワーがある！！- エ　その他　＜ワークショップ、ギャラリートーク＞	主催：堀光美術館

	くしげまちしょうご公開制作と色付けワークショップ ・日程　9月5日(土)、12日（土)、 19日（土)、26日（土)、10月3日（土) ・くしげまちしょうご氏 ガラスの風鈴組み立てのワークショップとギャラリートーク ・日程　9月23日（水・祝） ・講師　巽　愛子氏 染め体験のワークショップとギャラリートーク ・日程　9月27日（日） ・講師　古川　樹氏	

3　今後の予定

実施事項	主　な　内　容	備考
① ギャラリートーク	ア　日　時　9月27日(日)　午前10時～11時 イ　場　所　みき歴史資料館 ウ　内　容　企画展「秀吉・秀長の播磨攻めと城郭」の展示解説 エ　定　員　20人	主催：みき歴史資料館
② みなぎの書道展	ア　会　期　10月10日（土）～18日（日） イ　場　所　吉川総合公園　文化体育館 ウ　その他　審査日：9月20日（日） 表彰式：10月18日（日）	主催：墨華香るまちﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会/市教委
③ 企画展	ア　会　期　10月10日（土）～11月8日（日） イ　場　所　堀光美術館 ウ　内　容　三木市ゆかりの芸術家・作家展 -堀光ミーツアート- エ　その他　＜秋のナイトミュージアム＞ 日時：10月24日（土）18時～20時 ＜Horimitsu Art Day ワークショップで遊ぼう！＞ 日時：11月3日(火・祝)　時間調整中 きらきら書道チーム（ダンス、大筆パフォーマンス)、消しゴムはんこ、ビニールテ	主催：堀光美術館

	ープアート、日本画を描こう、紙粘土で遊ぼう、陶芸体験	
④ 企画展	ア　会　期　10月17日（土）～12月20日（日） イ　場　所　みき歴史資料館 ウ　内　容　地域の史料たち9　三木出身の近代画家　衣笠木荘 エ　その他　企画展特別講演会 ・日時　11月21日（土） 午後1時30分～3時 ・演題　衣笠木荘の画業について ・講師　橋本　寛子氏（新三木市史通史編文化遺産部会部会員、神戸女学院大学等兼任講師）	主催：みき歴史資料館/市史編さん室
⑤ ふれあいサウンドメモリー2026 第47回三木市民合唱祭	ア　日　時　10月25日（日）開場：午後0時30分～ 開演：午後1時～ イ　場　所　文化会館大ホール ウ　出演団体　13団体	主催：三木市合唱連盟/市教委

教 育 振 興 部　　学 校 教 育 課 報 告 事 項

1　実施した事業

実施事項	主　な　内　容	備考
①子どもたちのための教育フォーラム	ア　開催日　8月24日（月） イ　場　所　市民活動センター ウ　内　容 ・前半　三木市における不登校の現状と課題の共通理解 ・後半　「不登校・ひきこもりをみんなで考える集い」に参加	
②三木市ネットサミット	ア　開催日　8月25日（火） イ　場　所　教育センター ウ　内　容　ネット利用の問題点等についての検討 エ　講　師　兵庫県立大学環境人間学部教授 竹内　和雄　氏	
③学校運営協議会	第3回三樹小学校学校運営協議会　　8月25日（火） 第3回緑が丘小学校学校運営協議会　　8月25日（火）	
④2学期始業式	9月1日（火）	
⑤第6回定例校園所長会	ア　開催日　8月31日（月） イ　場　所　三木市役所 ・校舎等の天井や吊り下げ物に関する危険個所の確認について ・全国学力・学習状況調査の結果について ・１学期の長期欠席児童生徒にかかる報告について ・三木市内の学校を活用した集約型水泳学習について ・イングリッシュサマーフェスタの報告について ・夏季教職員人権研修の報告について ・避難所における暑さ・寒さ対策に係る小・中学校の普通教室等の利用について ・こども性暴力防止法第８条に基づく研修の実施について ・三木市立豊地小学校の統合に関する実施方針について	
⑥修学旅行	三木特別支援学校（中）　9月7日（月）～9日（水） 三木小学校　　9月16日（水）～17日（木）	
⑦「未来を創る学力育成三木モデルⅡ」に伴うScTN質問紙の効果的な活用に向けた研修会	ア　開催日　9月8日（火） イ　場　所　市民活動センター ウ　対象者　小学校、中学校、特別支援学校の研究推進担当者 エ　内　容 ・ScTNアンケートを活用した2学期の取組について	

2　実施中の事業

実施事項	主　な　内　容	備考
自然学校	口吉川小学校　　9月14日（月）～18日（金）	

	豊地小学校　　9月14日（月）～18日（金） 緑が丘東小学校　　9月14日（月）～18日（金）	

3　今後の予定

実施事項	主　な　内　容	備考
①体育的行事	ア　別所中学校　　10月1日（木） イ　よかフェス2026（吉川小中学校合同体育大会） 三木中学校　　10月3日（土） ウ　自由が丘中学校　　10月8日（木）	
②自然学校	ア　三木小学校、緑が丘小学校 9月28日（月）～10月2日（金） イ　別所小学校、自由が丘東小学校 10月5日（月）～9日（金） ウ　自由が丘小学校 10月12日（月・祝）～16日（金）	
③教育委員会計画訪問	平田小学校　　9月25日（金）	
④三木市新人大会	ア　開催日　9月19日（土）　野球、サッカー 9月26日（土）　それ以外の競技 イ　予備日　9月20日（日）　サッカー 9月28日（月）　野球、テニス	
⑤修学旅行	ア　志染小学校　　10月1日（木）・2日（金） イ　緑が丘中学校　　10月5日（月）～7日（水） ウ　平田小学校　　10月6日（火）・7日（水） エ　口吉川小学校、豊地小学校 10月9日（金）・10日（土）	
⑥第7回定例校園所長会	ア　開催日　10月2日（金） イ　場　所　教育センター	

三木市中学生ネットサミットの取組による成果及び子どもたちの変容について
（報告）

学校教育課

1　考え方の変化

「ネットの長時間利用を課題とし、利用時間削減やルールの必要性について考える」
→「デジタル社会の中でネットとどのように向き合い、適切に利用していくかを考える」

2　取組の広がり

ポスターや啓発新聞の作成
→市内共通の啓発動画の作成や上映、生徒会による小学生への出前授業、保護者への啓発など、中学生自身が考え、周囲へ働きかける取組へと広がる。

3　取組の波及

令和７年度に、全中学生を対象に生徒会による取組の効果を調査したところ、
・「ネット利用について考えるきっかけになった」78%
・「実際に利用時間を減らすなど、行動に移せた」67%
など、肯定的に回答しており、生徒から生徒への啓発が、自身のネット利用を振り返り、行動を見直す機会となっている。

【参考】令和８年度の開催報告

1　開催概要

(1) 日　時　令和８年８月２５日（火）13：00～16：00　三木市立教育センター
(2) 参加者　市内中学校３年生１８名（各校３名、一部オンライン参加）

2　ネットサミットの取組

(1) 概要

兵庫県立大学竹内和雄教授及び一般社団法人ソーシャルメディア研究会と連携し、市内児童生徒へのアンケート結果を基に、中学生がネット利用の課題や対策を主体的に考え、各学校での実践につなげる。

令和8年度　子どもたちのネット利用の状況(市内小･中学生 3,660 人)
○スマホ所有率　　小5：52%　中1：85%　中3：93%
○ネット利用時間4時間以上　小5：27%　中1：32%　中3：32.4%
○ネット依存傾向　　小学生：17.7%　中学生：24.4%
（2023 年調査全国平均　小学生：16.2%　中学生：24.1% ）
※ネット利用に関する8項目の質問の回答から算出

(2) 令和８年度の取組

ア　生徒から出された主な意見
・生徒会が小学校へ出向き、ネット利用に関するポイントを伝える。
・生徒会及び教員でタブレット端末のルールを見直す。
・自分たちでネット利用状況を調査する

イ　２学期に各校で取組を実施するとともに、三木市内共通でネット利用時間を継続して調査を行う。

ウ　１２月１８日（金）のオンライン報告会で、各校の実践を共有する予定。

令和８年度教育フォーラムの開催状況について（報告）

学校教育課

１　開催日時　　令和８年８月２４日（月）　午後１時３０分～午後４時

２　開催場所　　三木市立市民活動センター

３　参加人数　　教職員及び学校関係者　４４名

４　目　　的

(1)　学校・家庭・地域がこれからの学校教育について共に考え、多様な立場のかたがたとの意見交流を通して理解を深める。

(2)　不登校を経験された当事者や保護者の思いに触れ、学校教育における今後の支援の在り方について考える。

５　内　　容

(1)　前半の部　　教育フォーラムの趣旨説明

(2)　後半の部　　「不登校・ひきこもりをみんなで考える集いー明日へのステップー」へ参加

ア　不登校経験者２名及び講師によるトークセッション

(ｱ)　不登校になった経緯・背景

(ｲ)　学校・教員との関わり

(ｳ)　家族との関わり

(ｴ)　フリースクールがもたらしたもの

イ　小グループでの意見交換会　※一般参加者１７名

(ｱ)　自己紹介（名前及び立場）

(ｲ)　感想交流

(ｳ)　当事者の思いや経験交流

(ｴ)　支える側にできることの意見交流

(3)　参加した教員の感想（抜粋）

- 当事者や家族の声を直接聞くことができたのは、大変貴重な機会であった。
- 不登校は経験を制限されるものでなく、不登校ならではの経験を積んで、内省もし、成長していく人もいると知った。
- 当事者が求める学校や教員との関わりは、当事者によりそれぞれ違うと知った。ただし、「決して見放さない」気持ちを大切に、距離感を保ち接していくことが大切と感じた。
- 全てに正解はないと知った。そのためには、一人一人としっかりと向き合い、本人の気持ちをくみ取り、その先を考えられる人になりたいと思った。
- 全てが人生の中での通過点と思った。その時、その時にできることを考え、精いっぱい取り組むしかないと感じた。

６　今後の方向性

令和８年度の新たな取組として、不登校児童生徒を支える関係機関と連携した研修を行った。上記の感想にもあるように、教員にとっても新たな気付きや発見があり、大変有意義なフォーラムとなった。

令和９年度についても、引き続き、関係機関との連携を深め、多様な立場のかたがたとの意見交流等を通して、学校・家庭・地域全体で教育について考える「教育フォーラム」の開催を検討していく。

教育振興部　教育センター報告事項

1　教育センターについて

(1)　実施した事業

<table>
<tr><th>実施事項</th><th>主　な　内　容</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>① 教育相談</td><td>8月　（単位：件）
<table>
<tr><th rowspan="2">区　分</th><th colspan="2">電　話</th><th colspan="2">面　接</th><th colspan="2">合　計</th></tr>
<tr><th>本人
保護者</th><th>教　員</th><th>本人
保護者</th><th>教　員</th><th>本人
保護者</th><th>教　員</th></tr>
<tr><td>不　登　校</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育問題</td><td>5</td><td>3</td><td>9</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td></tr>
<tr><td>小　計</td><td>5</td><td>3</td><td>9</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td></tr>
<tr><td>ICTを使用した学習指導・ICTトラブル</td><td></td><td>125</td><td></td><td>17</td><td></td><td>142</td></tr>
<tr><td>合　計</td><td>5</td><td>128</td><td>9</td><td>27</td><td>14</td><td>155</td></tr>
</table></td><td></td></tr>
<tr><td>② 青少年悩みの相談</td><td>8月･･･電話（0）面接（0）　計0件</td><td></td></tr>
<tr><td>③ みっきぃルーム開室状況</td><td>ア　人　数　通級生3人(小学生1人、中学生2人)
体験生7人(小学生3人、中学生4人)
イ　活　動　9/8 雲龍寺座禅体験
9/16 堀光美術館制作活動</td><td></td></tr>
<tr><td>④ 専門研修講座8</td><td>ア　日　時　8月25日(火)
午前9時30分～11時30分
イ　場　所　教育センター 大研修室
ウ　テーマ　「一斉授業と自由進度学習の作り方」
エ　講　師　中部大学准教授　樋口万太郎氏
オ　参加者　84人</td><td></td></tr>
<tr><td>⑤ 兵庫県内教育研究所連盟研修担当者会</td><td>ア　日　時　9月16日(水)
午後1時30分～3時30分
（オンライン実施）</td><td></td></tr>
</table>

(2) 実施中の事業

実施事項	主 な 内 容	備考
発達教育相談	ア 期 日 9月18日(金) イ 場 所 教育センター 相談室 ウ 相談者 3人	

(3) 今後の予定事業

実施事項	主 な 内 容	備考
子どもが自走する学び実践研修	ア 日 時 9月24日(木) 午後3時～ イ 場 所 教育センター セミナー室2 ウ 講 師 葛原祥太氏（葛原学習研究所代表）	

2 青少年センターについて

(1) 実施した事業

実施事項	主 な 内 容	備考
① 青色パトロール車巡回	ア 日 時 8月25日(火)・9月9日(水) 17日(木) 午後1時30分～ イ 場 所 小学校区内	
② ネット見守り隊報告	ア 日 時 8月26日(水) 午前10時～ イ 場 所 教育センター	
③ 有害環境図書類廃棄	ア 日 時 8月28日(金) 午前10時～ イ 場 所 清掃センター	
④ みっきぃ夏まつり特別補導	ア 日 時 8月29日(土) 午後4時30分～ イ 場 所 兵庫県広域防災公園	
⑤ 子ども安全・安心の日の立ち番	ア 日 時 9月1日(火)・15日(火) 午前7時45分～ イ 場 所 各小学校	
⑥ 三木市青少年補導委員会第3回役員会、深夜補導	ア 日 時 9月4日(金) 午後7時30分～ イ 場 所 教育センター	
⑦ 「人の目の垣根隊」意見交換会	ア 日 時 9月7日(月)・11日(金)・18日(金) 午後1時30分～ イ 場 所 三樹小・広野小・緑が丘小 ウ 参加者 開催小学校長・教頭	

	関係中学校長、人の目の垣根隊 安全指導員、交通指導員　等	
⑧ 北播磨補導委員連絡協議会第3回理事会	ア　日　時　9月10日(木) 午後2時～ イ　場　所　西脇市	
⑨ 青少年健全育成ポスター審査会	ア　日　時　9月16日(水) 午後3時～ イ　場　所　教育センター	

(2)　今後の予定事業

実施事項	主　な　内　容	備考
① ネット見守り隊報告	ア　日　時　9月24日(木) 午後1時30分～ イ　場　所　教育センター	
② 「人の目の垣根隊」意見交換会	ア　日　時　9月25日(金)・29日(火)・10月1日(木) 5日(月)・6日(火)・13日(火) 午後1時30分～ イ　場　所　口吉川小・自由東小・平田小 自由が丘小・三木小・吉川小 ウ　参加者　開催小学校長・教頭 関係中学校長、人の目の垣根隊 安全指導員、交通指導員ほか	
③ 有害環境図書類廃棄	ア　日　時　9月30日(水) 午前10時～ イ　場　所　清掃センター	
④ 子ども安全・安心の日の立ち番	ア　日　時　10月1日(木)・15日(木) 午前7時45分～ イ　場　所　各小学校	
⑤ 青色パトロール車巡回	ア　日　時　10月7日(水) 午後1時30分～ イ　場　所　小学校区内	
⑥ 大宮八幡宮秋季例大祭特別補導	ア　日　時　10月10日(土) 午後4時45分～ 11日(日) 午後4時30分～ イ　場　所　大宮神社境内	

教育振興部　小中一貫教育推進室　報告事項

1　実施した事業

実施事項	主　な　内　容	備考
①吉川地域小中一貫校開校準備委員会（施設整備部会）	ア　日　時　8月17日（月） 午後7時～8時30分 イ　場　所　吉川町公民館 ウ　内　容　基本計画内容確認 エ　対　象　開校準備委員会部会委員	
②小中一貫教育担当者会	ア　日　時　8月26日（水） 午後1時～3時30分 イ　場　所　教育センター　大研修室 ウ　内　容　1学期の取組状況と2学期からの取組 エ　対　象　各校小中一貫教育担当者	
③第3回吉川地域小中一貫校開校準備委員会	ア　日　時　8月26日（水） 午後7時～8時30分 イ　場　所　吉川町公民館 ウ　内　容　基本計画内容報告① エ　対　象　開校準備委員会委員	
④第4回吉川地域小中一貫校開校準備委員会	ア　日　時　9月11日（金） 午後7時～8時30分 イ　場　所　吉川町公民館 ウ　内　容　基本計画内容報告② エ　対　象　開校準備委員会委員	

2　今後の予定

実施事項	主　な　内　容	備考
愛知県犬山市議会視察研修対応	ア　日　時　10月6日（火） 午後1時～3時 イ　場　所　委員会室 ウ　内　容　施設一体型小中一貫校の進め方 エ　対　象　犬山市議会	

教育振興部　教育・保育課報告事項

1　実施した事業

実施事項	主な内容	備考
① 特定教育・保育施設第三者評価	ア　日　時　8月28日（金）午前9時30分～ イ　場　所　エンゼル認定こども園	
	ア　日　時　9月2日（水）午前9時30分～ イ　場　所　別所認定こども園	
② 三木市保育協会理事会	ア　日　時　9月1日（火）　午後1時30分～ イ　場　所　市役所　中会議室1・2	
③ 令和9年度入園申込受付（認定こども園（1号認定）・三樹幼稚園）	ア　日　時　9月1日（火）～9月11日（金） 午前9時～午後4時30分 ※三樹幼稚園に直接提出する場合は、 午後2時30分～4時30分 イ　提出先　・認定こども園（1号認定） 教育・保育課又は吉川支所市民生活課窓口（郵送可） ・三樹幼稚園 三樹幼稚園又は教育・保育課	
④ キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応分野）兼保育者合同研修会	ア　日　時　9月12日（土）午前10時～午後4時 イ　場　所　中央公民館　大ホール ウ　講　師　兵庫大学短期大学部　教授　森田　惠子氏 エ　内　容　アレルギー疾患の理解と対応	

2　今後の予定

実施事項	主な内容	備考
① 三木市保育協会理事会	ア　日　時　10月1日（木）午後1時30分～3時 イ　場　所　市役所　中会議室1・2	市保育協会主催
② 令和9年度入園申込受付（認定こども園等の2号・3号認定児）	ア　日　時　10月1日（木）～10月30日（金） 午前9時～午後4時30分 イ　場　所　教育・保育課又は吉川支所市民生活課窓口 ※窓口での相談受付は平日のみ ※郵送手続可	

③ アフタースクール 支援員研修会	ア　日　時　10月1日(木) 午前9時30分～11時30分 イ　場　所　教育センター　大研修室 ウ　講　師　春川　政信氏 エ　テーマ　「配慮を要する子どもと保護者対応について（仮)」	
④ 令和9年度 アフタースクール 入所児童募集	ア　日　時　10月5日（月）～10月30日（金） 午前9時～午後4時30分 イ　場　所　教育・保育課、各アフタースクール ※教育・保育課での相談受付は平日のみ ※郵送手続可	10月1日以降ホームページ掲載予定